令 和 元 年 度

群馬大学大学教育・学生支援機構
報　告　書

群馬大学大学教育・学生支援機構

「令和元年度群馬大学大学教育・学生支援機構」報告書
発刊にあたって

大学教育・学生支援機構
機構長　峯　岸　　敬

群馬大学大学教育･学生支援機構は平成18年度に発足し，主に大学教育の企画･運営･改善・評価を担当する大学教育センター，学生の大学生活・就職活動を支援する学生支援センター，入学者選抜と学生募集に係る広報を担当する学生受入センター，学生及び大学教職員の心身の健康保持増進を図る健康支援総合センター，大学教育全体の改革を推進する教育改革推進室の４センター・１室の体制で構成されています。大学教育センターは，全学の教育実施・運営を担うことを明確にすべく，以前の教育基盤センターを改編して平成28年度に設置し，また，教育改革推進室は，以前の教育企画室を改編して平成28年度に設置致しました。さらに，総合情報メディアセンターと学内共同教育研究施設である国際センターも，学生の修学に必須の組織として本機構と連携して活動しております。これら全ての組織は, 群馬大学の教育業務を基幹的に担う重要な組織です。

令和元年度は第三期中期目標の４年目の年であり，大学評価の取りまとめの年になりました。大学教育の質を保証するためには，学部，学科等の学位を与える課程レベルのみならず, 大学レベルでの教育の内部質保証を推進することが必要であり, そのために, 大学としての全学的な教学マネジメントを確立することが求められています。そうした中で，大学教育，人材育成の充実に向けた教学マネジメント体制の構築に向けて，令和元年度は，改定したDP，CP，APの３つのポリシーを基に，大学教育の内部質保証のPDCAサイクルの構築に向けた取組みを引き続いて実施しております。他方，大学全体においても令和元年度は，群馬大学教育学部と宇都宮大学教育学部の双方の緊密な連携・協力に基づいた令和２年度共同教育学部の設置に向け，両大学で共通の授業を提供する準備をしました。また，これからの社会に欠かせないデータサイエンスを担う人材育成を目指した文理融合型の情報学部設置についても引き続いて検討しています。

本学の教育・研究の質を更に一層高め，本学が地域に根ざし知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし，社会と連携して21世紀を切り開いていく大学であることを示す必要があります。そのため，本機構の４センター・１室の令和元年度における取り組みをここにまとめ，その総括と課題の摘出を進めていくために本報告書を作成することには大きな意義があります。報告書をまとめ，評価と企画の基礎となるデータの系統的整理を行っていくことは，教学のPDCAサイクルを実行していく上でも基本となる作業です。

最後になりますが，本報告書の作成に当たり，編集にご協力をいただいた教職員の方々，また執筆していただいた方々に深く感謝申し上げます。

目　　次

巻頭言

1　大学教育・学生支援機構の組織 …… 1

1.1　大学教育・学生支援機構の組織図 …… 1

1.2　大学教育・学生支援機構の構成員 …… 2

1.3　教員による地域貢献事業 …… 8

2　大学教育センター …… 12

2.1　教養教育部会 …… 12

2.1.1　はじめに …… 12

2.1.2　令和元年度活動概要 …… 12

2.1.3　令和元年度活動内容 …… 12

2.2　外国語教育部会 …… 14

2.2.1　はじめに …… 14

2.2.2　英語習熟度別クラス編成，及び英語アチーブメントテスト …… 15

2.2.3　TOEIC-IP …… 15

2.2.4　TOEFL-ITP …… 16

2.2.5　TOEIC・TOEFL説明会 …… 16

2.2.6　ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験 …… 16

2.2.7　ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト …… 16

2.2.8　理工学部の英語教育カリキュラムについて …… 17

2.2.9　教育学部の英語教育カリキュラムについて …… 18

2.3　大学教育センター資料集 …… 18

3　学生支援センター …… 64

3.1　入学料免除及び徴収猶予 …… 64

3.1.1　免除申請者数，免除者数 …… 64

3.1.2　徴収猶予申請者数，徴収猶予者数 …… 64

3.2　授業料免除及び徴収猶予 …… 64

3.2.1　免除申請者数，免除者数 …… 64

3.2.2　徴収猶予申請者数，徴収猶予者数 …… 65

3.3　寄宿料免除 …… 65

3.3.1　免除申請者数，免除者数 …… 65

3.4　奨学金 …… 65

3.4.1　日本学生支援機構奨学生数（令和元年10月１日現在） …… 65

3.4.2　日本学生支援機構以外の奨学生数（令和元年10月１日現在）…… 65
3.5　学生相談体制及び学生相談 …… 65
3.5.1　学生相談体制 …… 65
3.5.2　主な相談事項 …… 65
3.5.3　学生相談実態調査アンケートの実施及び活用 …… 66
3.6　授業欠席状況調査 …… 66
3.6.1　授業欠席者数及び主な欠席理由 …… 66
3.6.2　実施方法，時期 …… 66
3.7　障害学生への支援 …… 67
3.7.1　支援内容 …… 67
3.8　学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険 …… 67
3.8.1　加入者数 …… 67
3.8.2　請求種別保険金請求件数 …… 67
3.9　通学証明書，旅客運賃割引証 …… 67
3.9.1　発行枚数及び主な発行理由 …… 68
3.10　学生寮 …… 68
3.10.1　養心寮入寮者数 …… 68
3.10.2　啓真寮入寮者数 …… 68
3.11　生活支援施設 …… 68
3.11.1　食堂 …… 68
3.11.2　売店 …… 68
3.12　課外活動施設 …… 69
3.12.1　体育施設 …… 69
3.12.2　文化施設 …… 71
3.12.3　課外活動共用施設 …… 71
3.12.4　合宿所 …… 71
3.13　学生団体及び主な活動 …… 72
3.13.1　学生団体 …… 72
3.13.2　大学祭 …… 72
3.13.3　関東甲信越大学体育大会 …… 72
3.13.4　クラブ・サークルリーダーシップ研修会 …… 72
3.14　研修施設 …… 73
3.14.1　北軽井沢研修所 …… 73
3.14.2　草津セミナーハウス …… 73
3.15　学生の就職支援 …… 74

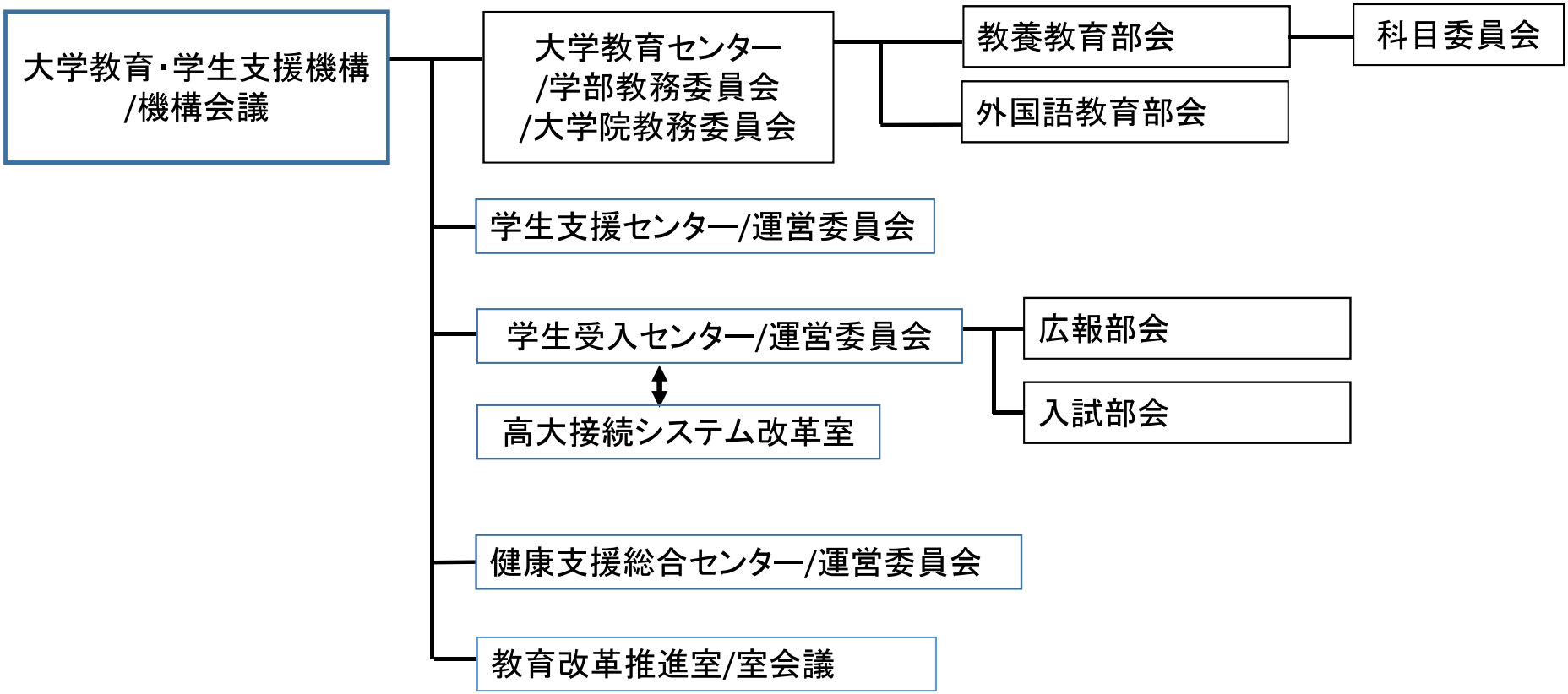
3.15.1　進路状況及び主な就職先 …… 74
3.15.2　全学就職ガイダンス・セミナーの開催 …… 74
3.15.3　キャリアカウンセリングの充実 …… 74
3.15.4　キャリアサポート室における情報収集環境の充実 …… 74
3.15.5　就職支援の体制強化の充実 …… 75
3.15.6　就職支援BOOKの作成・配布 …… 75
3.16　就業力育成支援 …… 75
3.17　学生生活実態調査 …… 75
3.18　キャンパスニュース群の発行 …… 76
3.19　事件・事故 …… 76
3.20　学生支援センター資料集 …… 76
4　学生受入センター …… 93
4.1　はじめに …… 93
4.2　大学入学共通テストへの対応 …… 93
4.3　入学者の選抜方法改善と追跡調査 …… 94
4.4　オープンキャンパス等 …… 94
4.4.1　群馬大学オープンキャンパス「GU'DAY2019」 …… 94
4.4.2　学部別オープンキャンパス …… 94
4.5　学生募集に係わる広報活動 …… 94
4.5.1　高等学校等の教員を対象とした説明会 …… 94
4.5.2　群馬県高等学校長協会との意見交換会 …… 95
4.5.3　大学説明会・進学相談会 …… 95
4.5.4　夢ナビ …… 95
4.5.5　出張模擬授業 …… 95
4.5.6　高校訪問 …… 95
4.5.7　大学見学受入 …… 95
4.5.8　大学案内，大学紹介動画の作成 …… 95
4.5.9　ウェブサイト等による広報 …… 95
4.5.10　学生広報大使による広報 …… 95
4.6　広報戦略の立案 …… 96
4.7　その他 …… 96
4.8　学生受入センター資料集 …… 96
5　健康支援総合センター …… 101
5.1　はじめに …… 101
5.2　令和元年度実施事業 …… 101

5.2.1　学生定期健康診断の実施 …… 101
5.2.2　精神保健調査の実施 …… 101
5.2.3　学校生活に関する困りごとの調査の実施 …… 101
5.2.4　学生特殊健康診断の実施 …… 102
5.2.5　外国人留学生健康診断の実施 …… 102
5.2.6　自殺予防対策ワーキンググループの発足 …… 102
5.3　健康支援総合センター利用状況 …… 102
5.3.1　利用人数及び件数 …… 102
5.3.2　健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告 …… 102
5.3.3　疾病領域別利用者数 …… 103
5.3.4　診療科別医療機関紹介件数 …… 103
5.3.5　薬剤別処方日数 …… 103
5.3.6　桐生地区・保健室利用状況 …… 103
5.3.7　昭和地区・学生健康相談室利用状況 …… 103
5.3.8　キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動 …… 103
5.4　教育関連活動 …… 104
5.5　健康管理に関する調査研究活動 …… 104
5.6　健康支援総合センター主催の委員会等 …… 104
5.7　健康支援総合センターの全国会議等出席 …… 104
5.8　学内行事実施に伴う救護業務 …… 105
5.9　出版・広報活動 …… 105
5.10　社会貢献活動 …… 105
5.11　産業保健活動 …… 106
5.11.1　安全衛生委員会 …… 106
5.11.2　産業医部会 …… 106
5.11.3　職員の定期健康診断 …… 106
5.12　本来業務以外の支援業務 …… 106
5.13　健康支援総合センターの現状及び今後の方向性 …… 107
5.14　健康支援総合センター資料集 …… 107
6　教育改革推進室 …… 127
6.1　教育課程・学修成果に関する取り組み …… 127
6.2　教育の内部質保証に関する取り組み …… 127
6.3　その他の取り組み …… 127
6.3.1　ベストティーチャー賞 …… 127
6.3.2　第11回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」 …… 128

6.3.3　教員を対象とした英語授業のための研修 …… 128
6.4　教育改革推進室資料集 …… 128

1　大学教育・学生支援機構の組織

1.1　大学教育・学生支援機構の組織図



1.2　大学教育・学生支援機構構成員

機構長　峯　岸　　敬
副機構長　渡　辺　秀　司

大学教育センター
センター長　峯　岸　　敬
副センター長　渡　辺　秀　司
教授　松　元　宏　行
教授　結　城　　恵
准教授　飯　島　睦　美
准教授　飯　田　敦　史
准教授　コントレラス・ジェフリー
准教授　フーゲンブーム・レイモンド
准教授　ベルジュロン・シルバン
准教授　サンプソン・リチャード
講師　ネウパネ・プラミラ

学生支援センター
センター長　峯　岸　　敬
副センター長　山　内　春　光
副センター長・准教授
五　味　洋　一

障害学生支援室
室長　五　味　洋　一

就業力育成支援室
室長　松　元　宏　行

学生受入センター
センター長　峯　岸　　敬
副センター長　杉　山　　学

健康支援総合センター
センター長　田　村　遵　一
副センター長・教授
竹　内　一　夫
講師　宮　﨑　博　子

教育改革推進室
室長　峯　岸　　敬
副室長　渡　辺　秀　司
准教授　二　宮　　祐

委員会等

大学教育・学生支援機構会議
委員　峯　岸　　敬　理事（教育・企画担当）・副学長
委員　渡　辺　秀　司　理工学府
委員　田　村　遵　一　医学部附属病院
委員　山　内　春　光　社会情報学部

委員	杉　山　　学	社会情報学部
委員	竹　内　一　夫	大学教育・学生支援機構
委員	和　田　直　樹	医学系研究科
委員	飯　田　敦　史	大学教育・学生支援機構
委員	二　宮　　祐	大学教育・学生支援機構
委員	大　川　雄　司	学務部

大学教育センター学部教務委員会

委員長	峯　岸　　敬	理事（教育・企画担当）・副学長
委員	渡　辺　秀　司	理工学府
委員	和　田　直　樹	医学系研究科
委員	飯　田　敦　史	大学教育・学生支援機構
委員	照　屋　　保	教育学部
委員	佐　渡　一　広	社会情報学部
委員	松　﨑　利　行	医学系研究科
委員	大　西　浩　史	保健学研究科
委員	古　畑　朋　彦	理工学府
委員	大　川　雄　司	学務部
委員	二　宮　　祐	大学教育・学生支援機構

大学教育センター大学院教務委員会

委員長	峯　岸　　敬	理事（教育・企画担当）・副学長
委員	渡　辺　秀　司	理工学府
委員	西　薗　大　実	教育学部
委員	山　口　陽　弘	教育学部
委員	岩　井　　淳	社会情報学部
委員	鯉　淵　典　之	医学系研究科
委員	筑　田　博　隆	医学系研究科
委員	齋　尾　征　直	保健学研究科
委員	飛　田　成　史	理工学府
委員	大　川　雄　司	学務部
委員	和　田　直　樹	医学系研究科
委員	飯　田　敦　史	大学教育・学生支援機構
委員	二　宮　　祐	大学教育・学生支援機構

大学教育センター教養教育部会

部会長	和　田　直　樹	医学系研究科
部会員	飯　田　敦　史	大学教育・学生支援機構
部会員	寺　嶋　容　明	教育学部
部会員	河　島　基　弘	社会情報学部
部会員	鎌　田　英　男	医学系研究科
部会員	大　庭　志　野	保健学研究科
部会員	山　延　　健	理工学府
部会員	森　谷　　健	社会情報学部
部会員	上　宮　英　之	保健学研究科
部会員	高　橋　俊　樹	理工学府
部会員	中　雄　勇　人	教育学部
部会員	山　内　春　光	社会情報学部
部会員	京　免　　徹	理工学府
部会員	渡　辺　秀　司	理工学府
部会員	尾　崎　広　明	理工学府
部会員	松　元　宏　行	大学教育・学生支援機構
部会員	舩　橋　瑞　貴	国際センター
部会員	佐　藤　幸　市	生体調節研究所

部会員	二　宮　　祐	大学教育・学生支援機構

科目委員会：学びのリテラシー委員会

委員長	森　谷　　健	社会情報学部
委員	小　谷　英　生	教育学部
委員	永　野　清　仁	社会情報学部
委員	柴　田　孝　之	保健学研究科
委員	野　田　玲　治	理工学府
委員	小　林　正　行	教育学部
委員	和　田　直　樹	医学系研究科
委員	山　延　　健	理工学府
委員	大　和　啓　子	国際センター

科目委員会：総合科目委員会

委員長	上　宮　英　之	保健学研究科
委員	金　澤　貴　之	教育学部
委員	大　野　富　彦	社会情報学部
委員	松　崎　利　行	医学系研究科
委員	武　田　亘　弘	理工学府
委員	小　林　陽　子	教育学部
委員	小　竹　裕　人	社会情報学部
委員	尾　崎　広　明	理工学府

科目委員会：情報委員会

委員長	高　橋　俊　樹	理工学府
委員	齋　江　貴　志	教育学部
委員	松　井　　猛	社会情報学部
委員	齋　藤　勇一郎	医学系研究科
委員	寺　嶋　容　明	教育学部
委員	佐　渡　一　広	社会情報学部
委員	豊　村　　暁	保健学研究科
委員	白　石　洋　一	理工学府
委員	横　山　重　俊	総合情報メディアセンター
委員	高　橋　　啓	数理データ科学教育研究センター

科目委員会：スポーツ・健康委員会

委員長	中　雄　勇　人	教育学部
委員	柿　本　敏　克	社会情報学部
委員	坂　本　雅　昭	保健学研究科
委員	中　沢　信　明	理工学府
委員	田　井　健太郎	教育学部
委員	木　山　慶　子	教育学部

科目委員会：人文・社会科学委員会

委員長	山　内　春　光	社会情報学部
委員	今　井　就　稔	教育学部
委員	藤　井　正　希	社会情報学部
委員	山　本　康次郎	医学系研究科
委員	蔡　　飛	理工学府
委員	山　崎　法　子	教育学部
委員	北　村　　純	社会情報学部
委員	村　田　祥　子	保健学研究科

科目委員会：自然科学委員会

委員長	京　免　　徹	理工学府
委員	青　木　悠　樹	教育学部
委員	石　川　真　一	社会情報学部
委員	鯉　淵　典　之	医学系研究科
委員	浜　名　　誠	理工学府
委員	山　本　亮　介	教育学部
委員	岩　﨑　博　之	教育学部
委員	西　村　尚　之	社会情報学部
委員	柳　　奈津子	保健学研究科
委員	高　橋　　浩	理工学府

大学教育センター外国語教育部会

部会長	飯　田　敦　史	大学教育・学生支援機構
部会員	和　田　直　樹	医学系研究科
部会員	飯　島　睦　美	大学教育・学生支援機構
部会員	コントレラス・ジェフリー	大学教育・学生支援機構
部会員	フーゲンブーム・レイモンド	大学教育・学生支援機構
部会員	サンプソン・リチャード	大学教育・学生支援機構
部会員	ベルジュロン・シルバン	大学教育・学生支援機構
部会員	ネウパネ・プラミラ	大学教育・学生支援機構
部会員	宮　本　　文	教育学部
部会員	井　門　　亮	社会情報学部
部会員	村　上　正　巳	医学系研究科
部会員	川　島　智　幸	保健学研究科
部会員	宮　崎　隆　史	理工学府
部会員	田　中　一　嘉	教育学部
部会員	三　原　智　子	教育学部
部会員	越　智　貴　子	国際センター
部会員	渡　辺　秀　司	理工学府

学生支援センター運営委員会

委員長	峯　岸　　敬	理事（教育・企画）・副学長
委員	山　内　春　光	社会情報学部
委員	五　味　洋　一	大学教育・学生支援機構
委員	任　　龍　在	教育学部
委員	大　谷　龍　二	教育学部
委員	前　田　　泰	社会情報学部
委員	和　田　直　樹	医学系研究科
委員	篠　崎　博　光	保健学研究科
委員	上　野　圭　司	理工学府　（～６月11日）
委員	橋　本　誠　司	理工学府　（６月12日～）
委員	田　村　　充	教育学部
委員	杉　山　　学	社会情報学部
委員	鯉　淵　典　之	医学系研究科
委員	大　川　雄　司	学務部
委員	竹　内　一　夫	大学教育・学生支援機構
委員	牧　原　　功	国際センター

学生支援センター学生相談・生活部会

部会長	山内春光	社会情報学部
部会員	五味洋一	大学教育・学生支援機構
部会員	任　龍在	教育学部
部会員	大谷龍二	教育学部
部会員	前田　泰	社会情報学部
部会員	和田直樹	医学系研究科
部会員	篠崎博光	保健学研究科
部会員	上野圭司	理工学府　（～６月11日）
部会員	橋本誠司	理工学府　（６月12日～）
部会員	渡辺秀司	理工学府
部会員	竹内一夫	大学教育・学生支援機構
部会員	牧原　功	国際センター
部会員	大川雄司	学務部
部会員	宮崎博子	大学教育・学生支援機構

学生支援センター就職支援部会

部会長	山内春光	社会情報学部
部会員	五味洋一	大学教育・学生支援機構
部会員	田村　充	教育学部
部会員	杉山　学	社会情報学部
部会員	鯉淵典之	医学系研究科
部会員	篠崎博光	保健学研究科
部会員	上野圭司	理工学府　（～６月11日）
部会員	橋本誠司	理工学府　（６月12日～）
部会員	大川雄司	学務部
部会員	松元宏行	大学教育・学生支援機構

学生受入センター運営委員会

委員長	峯岸　敬	理事（教育・企画担当）・副学長
副委員長	杉山　学	社会情報学部
委員	板橋英之	理工学府
委員	木山慶子	教育学部
委員	山内春光	社会情報学部
委員	富田治芳	医学系研究科
委員	臼田　滋	保健学研究科
委員	武田茂樹	理工学府
委員	大川雄司	学務部
委員	山崎法子	教育学部
委員	西村尚之	社会情報学部
委員	平井宏和	医学系研究科
委員	内田陽子	保健学研究科
委員	天谷賢児	理工学府

学生受入センター運営委員会広報部会

部会長	杉山　学	社会情報学部
部会員	板橋英之	理工学府
部会員	山崎法子	教育学部
部会員	西村尚之	社会情報学部
部会員	平井宏和	医学系研究科
部会員	内田陽子	保健学研究科
部会員	天谷賢児	理工学府
部会員	大川雄司	学務部

学生受入センター入試部会

部会長	杉山　学	社会情報学部
部会員	板橋　英之	理工学府
部会員	木山　慶子	教育学部
部会員	山内　春光	社会情報学部
部会員	富田　治芳	医学系研究科
部会員	臼田　滋	保健学研究科
部会員	武田　茂樹	理工学府
部会員	大川　雄司	学務部

高大接続システム改革室

室長	峯岸　敬	理事（教育・企画担当）・副学長
室員	板橋　英之	理工学府
室員	杉山　学	社会情報学部
室員	富山　慶典	特別教授
室員	伊藤　隆	教育学部
室員	富田　治芳	医学系研究科
室員	内田　陽子	保健学研究科

健康支援総合センター運営委員会

委員長	田村　遵一	理事（病院担当）・附属病院長
委員	竹内　一夫	大学教育・学生支援機構
委員	宮﨑　博子	大学教育・学生支援機構
委員	大谷　龍二	教育学部
委員	前田　泰	社会情報学部
委員	和田　直樹	医学系研究科
委員	篠崎　博光	保健学研究科
委員	上野　圭司	理工学府　（～６月11日）
委員	橋本　誠司	理工学府　（６月12日～）
委員	松谷　治	総務部
委員	大川　雄司	学務部

教育改革推進室

室　長	峯岸　敬	理事（教育・企画担当）・副学長
副室長	渡辺　秀司	理工学府
室員	二宮　祐	大学教育・学生支援機構
室員	栗原　淳一	教育学部
室員	杉山　学	社会情報学部
室員	和田　直樹	医学系研究科
室員	坂本　雅昭	保健学研究科
室員	板橋　英之	理工学府
室員	結城　恵	大学教育・学生支援機構
室員	飯田　敦史	大学教育・学生支援機構
室員	幾田　英夫	大学教育・学生支援機構

1.3　教員による地域貢献事業

令和元年度活動内容

No.	教員名	活動内容	実施日
1	結城　　恵	文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員	
2	結城　　恵	文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育スタートアッププログラム　地域日本語教育アドバイザー	
3	結城　　恵	前橋市　アーツ前橋運営評議会委員	
4	結城　　恵	渋川市総合計画審議会副委員長	
5	結城　　恵	博報堂教育財団『博報賞』審査委員	
6	結城　　恵	公益財団法人全国市町村研修財団　全国市町村国際文化研修所（JIAM）教科問題研究会委員	
7	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入環境充実事業」「グローカル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム委員	
8	結城　　恵	「グローカル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム　グローカル・リーダーシップ・プログラム（GLLP）研究会委員	
9	結城　　恵	「グローカル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム　住環境整備推進委員会委員	
10	結城　　恵	「グローカル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム　生活・就職支援実行委員会委員	
11	結城　　恵	留学生就職促進プログラム GHKGインターンシップ部会委員	
12	結城　　恵	留学生就職促進プログラム GHKGビジネス日本語部会委員	
13	結城　　恵	留学生就職促進プログラム GHKGキャリア教育部会委員	
14	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業 『日本の住まいと暮らしに　私たちが不安に感じること－外国人留学生の視点から考える　住環境受入れ環境整備』の作成	
15	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業 『生活者としての外国人留学生の　視点から考える－共生防災への環境整備の必要性』の作成	
16	竹内　一夫	全国大学メンタルヘルス学会理事	
17	竹内　一夫	全国大学保健管理協会評議員兼関東甲信越地方部会幹事	
18	竹内　一夫	群馬地方労働審議会委員長代行	
19	竹内　一夫	群馬県障害者雇用対策プロジェクトチーム座長	
20	竹内　一夫	前橋市教育委員会学校問題対策専門委員会委員	
21	竹内　一夫	群馬産業保健総合支援センター評価委員・相談員	

No.	教員名	活動内容	実施日
22	竹内　一夫	群馬職域メンタルヘルス交流会運営委員兼評議員	
23	竹内　一夫	学会誌「大学生のメンタルヘルス」編集委員兼査読委員	
24	竹内　一夫	北関東医学会評議員	
25	竹内　一夫	学会誌　Endocrine Journal　査読委員	
26	竹内　一夫	連合群馬「ライフサポートぐんま」アドバイザー	
27	竹内　一夫	NPO法人日本ゲートキーパー協会理事	
28	竹内　一夫	FMぐんま「サンセット５」取材協力「五月病について」	５月６日
29	竹内　一夫	群馬労働基準協会連合会技能研修「酸素欠乏」及び「有機溶剤」講師	５月８日，６月19日，７月24日，９月11日，１月22日，３月11日
30	飯島　睦美	高崎市立玉村高校　英語指導支援訪問	６月４日
31	飯島　睦美	文部科学省令和元年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業　スーパーバイザー 高崎市立寺尾中学校，大類中学校　訪問指導	６月５日
32	飯島　睦美	文部科学省令和元年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業　スーパーバイザー 高崎市立寺尾中学校，大類中学校　訪問指導	６月６日
33	結城　　恵	ハタラクラスぐんま地域日本語教室（文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育支援事業継続事業） 指導スタッフ養成講座	６月30日・７月７日
34	結城　　恵	留学生就職促進プログラム GHKGコンソーシアムの開催	７月１日
35	飯島　睦美	高崎市立玉村高校　英語指導支援訪問	７月９日
36	飯島　睦美	文部科学省令和元年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業　スーパーバイザー 高崎市立寺尾中学校，大類中学校　訪問指導	７月12日
37	結城　　恵	ハタラクラスぐんま地域日本語教室（文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育支援事業継続事業） 地域日本語教室の実施	７月21日，８月４・18日，９月15・29日，10月20・24日，12月８日
38	飯島　睦美	東京都足立区教育委員会　第２回中学校教科別研修会（英語）	７月24日
39	五味　洋一	群馬県教育委員会　教育職員免許法認定講習「LD等教育総論」	７月29日
40	飯島　睦美	高崎市立玉村高校　英語指導支援訪問	８月８日
41	五味　洋一	日本学生支援機構　令和元年度障害学生支援専門テーマ別セミナー【高大連携】「生活介助を必要とする学生の高等教育への移行支援からみた高大連携の在り方」	８月９日
42	飯島　睦美	高崎市立玉村高校　英語指導支援訪問	８月20日
43	飯島　睦美	文部科学省令和元年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業　スーパーバイザー 高崎市立寺尾中学校，大類中学校　訪問指導	８月21日

No.	教員名	活動内容	実施日
44	竹内　一夫	群馬テレビ「ビジネスジャーナル」コメンテーター「職場のメンタルヘルス～発達障害者への対応の実際～」	８月23日
45	結城　　恵	留学生就職促進プログラム GHKG【地域対応型】インターンシップin沼田	８月27日～９月８日
46	五味　洋一	育英大学・育英短期大学　FD・SD研修会「発達障害をもつ学生への合理的配慮について」	９月５日
47	竹内　一夫	群馬県医師会産業医研修講師「メンタルヘルス対策」	９月23日
48	飯島　睦美	令和元年度筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校研究協力委員会	10月９日
49	結城　　恵	留学生就職促進プログラム GHKG【業界対応型】インターンシップinジェトロ群馬	10月17日
50	飯島　睦美	シンポジウム「英語学習につまずく子どもの理解から始まる支援：理論と実践の融合」開催	10月19日
51	飯島　睦美	文部科学省令和元年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業　スーパーバイザー高崎市立寺尾中学校，大類中学校　訪問指導	10月24日
52	五味　洋一	群馬県教育委員会　公立高等学校等特別支援教育コーディネーター研究協議会「大学に進学した発達障害のある学生の支援」	10月30日
53	竹内　一夫	群馬産業保健総合支援センター産業保健セミナー講師「大人の発達障害をどう考えたらよいか」	10月31日
54	飯島　睦美	群馬県立玉村高校　英語指導支援訪問	11月１日
55	飯島　睦美	千葉県松戸市英語部会研修会講師	11月11日
56	竹内　一夫	日本産業カウンセラー協会上信越支部・JAICOの日・一般公開講座講師「成人の発達障害への理解に向けて」	11月23日
57	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業 『暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト』第１回ワークショップ「外国人住民はなぜ避難しなかったのか－台風19号を考える」	11月24日
58	飯島　睦美	一般財団法人きょういく創造育成財団 シンポジウム「学校のダイバーシティ＆インクルージョン」講師	11月24日
59	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業 『暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト』第２回ワークショップ「外国人住民はなぜ避難しなかったのか－戸惑い・不安を知る」	12月１日
60	竹内　一夫	群馬県かかりつけ医うつ病対応力向上研修会　講師「連携編～産業メンタルヘルスの立場から～」	12月１日
61	竹内　一夫	全国大学生メンタルヘルス学会教育講演講師「学会誌「大学生のメンタルヘルス」投稿における統計のガイドライン案について」	12月５日

No.	教員名	活動内容	実施日
62	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業 『暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト』第３回ワークショップ「外国人住民が納得し主体的に避難する方策を考える」	12月15日
63	飯島　睦美	文部科学省令和元年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業　スーパーバイザー高崎市立寺尾中学校，大類中学校　訪問指導	１月17日
64	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業 『暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト』第４回ワークショップ「外国人住民にとって聞こえない「音」」	１月19日
65	飯島　睦美	群馬県立玉村高校　英語指導支援訪問	１月21日
66	竹内　一夫	群馬産業保健総合支援センターセミナー「職場のメンタルヘルス～群馬県内ストレス調査の20年～」	１月29日
67	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業 『暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト』第５回ワークショップ「外国人住民にとって群馬は暮らしやすいのか」	２月２日
68	飯島　睦美	令和元年度筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校研究協力委員会	２月７日
69	結城　　恵	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入れ環境充実事業 『暮らしのダイバーシティ推進プロジェクト』第６回ワークショップ「日本人住民にとっても外国人住民にとっても暮らしやすい群馬の生活のために」	２月23日
70	竹内　一夫	上毛新聞社社員セミナー「職場のメンタルヘルス～新しい点と変わらない点～」	２月25日
71	結城　　恵	留学生就職促進プログラム　インターンシップ成果報告会（第１回）	３月18日
72	結城　　恵	留学生就職促進プログラム　インターンシップ成果報告会（第２回）	３月20日

２　大学教育センター

2.1　教養教育部会

2.1.1　はじめに

平成23年度に発足した教養教育部会は，教養教育を実施・運営するための調整をはじめとする実務的側面を担う組織である。部会長，副部会長，大学教育センター副センター長，外国語教育部会部会長，科目委員会（学びのリテラシー，総合科目，情報，スポーツ・健康，人文･社会科学，自然科学）の各委員長，就業力育成支援室，国際センター，生体調節研究所，大学教育・学生支援機構から各１名，及び各学部教務委員（教育学部，社会情報学部，理工学部からは各１名，医学部からは医学科，保健学科より各１名の計２名）の構成員からなる。令和元年度は総計19名のメンバーで活動した。

2.1.2　令和元年度活動概要

教養教育部会は，毎月１回（原則として第３月曜日）に定例部会を開催し，教養教育実施に関する諸問題について討議した。令和元年度は，４月に第１回の部会を開催し，８月の休会を除いて，令和２年３月まで計11回の定例会議及び１回の臨時会議を行った。活動全般としては，例年どおりであったが，令和２年４月に設置となる共同教育学部に係る規則改正に基づく議論及び英語科目における単位認定制度の見直しに係る議論を行った。

2.1.3　令和元年度活動内容

令和元年度教養教育部会の主な業務は下記のとおりであった。

１）次年度教養教育科目開講コマ数の確定
２）次年度教養教育実施体制（担当教員などの確定）についての承認
３）次年度教養教育科目等の時間割の確定
４）次年度学年暦の作成・承認
５）非常勤講師（ゲスト講師を含む）採用のための審査
６）教養教育科目の授業にかかわる経費などの承認
７）合宿研修費要求に関する審査
８）TAの採用に関する審査
９）授業評価アンケートの結果及び授業改善アンケートの確認
10）共同教育学部の設置に基づく関係規則の承認
11）英語科目の単位認定制度の見直しについての承認
12）教養教育科目における追試験の実施に係る審査
13）クォーター制の導入についての検討
14）障害を有する入学志願者との事前相談に関する報告
15）協定を結ぶ他大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
16）放送大学との単位互換科目（追加・変更分）についての報告
17）交換留学生の教養教育科目履修についての報告
18）令和２年度から開始となるデータ・サイエンスの授業についての検討

これらの主要業務及びそれに関連する事項について，月別に示すと以下のとおりとなる。

４月　新入生のオリエンテーションの実施

５月　交換留学生の前期教養教育科目履修届についての報告
　　教養教育関係予算案の承認
６月　文化講演会の開催
　　令和２年度学年暦案の提示
　　前期修得単位認定の報告
７月　前期期末試験の実施
　　令和２年度学部別担当コマ数に関する基本方針の承認
　　令和２年度学年暦案の確認
　　前期教養教育授業評価アンケートの確認
９月　令和２年度教養教育実施体制案の提示
　　障害等のある入学志願者との事前相談についての報告
　　令和元年度前期教養教育科目における追試験許可についての報告
10月　令和２年度データ・サイエンスの授業についての審議
11月　学長と学生との懇談会実施
　　令和２年度教養教育実施体制案の検討
　　交換留学生の後期教養教育科目履修届についての報告
　　後期修得単位認定の報告
　　後期教養教育授業評価アンケートの確認
　　学部カリキュラム・ポリシーの改正の確認
　　教養教育科目等に関する規則の改正の確認
　　クォーター制の導入についての検討
12月　令和２年度教養教育実施体制および開講科目についての承認
　　協定を結ぶ他大学との単位互換科目についての承認
　　協定を結ぶ他大学との単位互換に係る履修可能授業科目についての承認
　　令和２年度非常勤講師の採用についての承認
　　令和２年度教養教育授業案内原稿の承認
１月　令和２年度教養教育開講科目（一部変更）についての承認
２月　後期期末試験の実施
　　令和２年度開放専門科目についての承認
　　令和元年度後期教養教育科目における追試験許可についての報告
　　令和２年度教養教育履修手引原稿の承認
３月　令和２年度新入生オリエンテーション計画の作成
　　令和２年度TAの採用計画案についての承認
　　令和２年度教養教育履修手引の作成
　　令和２年度教養教育授業案内の作成

その他，具体的な活動の一部を以下に記載する。

１）英語科目における単位認定制度の見直しについて

英語科目における単位認定制度の見直しを行い，令和２年度入学生（社会情報学部を除く）から適用することとした。

２）科目委員会委員の選出方法等に関する申合せの一部改正について

教養教育部会科目委員会委員の選出方法等に関する申合せについて，必要な改正を行った。

３）新型コロナウィルスの感染拡大防止に伴う検討について

新型コロナウィルス感染拡大防止のためオンラインによる授業を実施することとなり，令和２年度前期の授業開始日を変更し，授業開講の準備を行った。

４）令和元年度文化講演会について

今年度の文化講演会を以下のとおり実施した。

○開催日時：令和元年６月11日（火）16：00 ～ 17：30

○会　　場：荒牧地区　大学会館ミューズホール

○講　　師：佐羽宏之［2015年からの生活交通をつくる会会長］

○演　　題：「ぐんまの交通史とこれからの生活交通」

参加者は126名で，成功裡に終了した。参加者の内訳は以下のとおりであった。

総合科目群「ぐんま未来学」受講学生	114名
授業以外の本学学生	２名
教職員	10名

５）教養教育授業評価について

平成25年度より全学で導入された「学びのリテラシー（１）」,「学びのリテラシー（２）」及び「情報」の授業評価アンケートを，全学部１年生を対象として実施した。いずれのアンケートにおいても，ほぼ全ての設問において８割～９割が良好との回答が得られており，講義目的は概ね達成されていると判断された。

2.2　外国語教育部会

2.2.1　はじめに

令和元年度，外国語教育部会は，前年度同様，全学の外国語教育の改善に取り組んだ。４月には全学部で新入生を対象に英語プレイスメントテスト（クラス編成テスト）を実施し，その結果に基づき，英語習熟度別クラス編成を行った。１年生のクラス規模については，平成28年度から引き続き，全学部において単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数は34名以下とした。

まず，理工学部のアチーブメントテスト（学習到達度測定テスト）に関しては，前期末に英語統一テスト（TOEIC-IP）を実施し，その結果を前期の英語授業（「英語AI」「英語BI」）の成績に算入した。後期に関しては，平成27年度より引き続き，１年生を対象（医学部医学科を除く）に，アチーブメントテストとして英語統一テスト（TOEIC-IP）を実施し，その結果を後期の英語授業の成績に算入した。教育学部及び社会情報学部においては，同テストの結果をもとに「英語２年」の習熟度別クラス編成を行った。

さらに，これまでの英語教育の改善への取り組みを広げるため，今年度の外国語教育部会では，以下の４点を決定した。

① 理工学部・社会情報学部・教育学部・医学部保健学科に続き，令和元年度より医学部医学科においても英語統一テストの成績を１年生の後期英語授業の成績に算入することとし，英語統一テストの成績算入を全学で導入する。

② 理工学部２年生の教養英語の履修単位２単位を新たに設け，「英語Ｃ：発展英語」を桐生キャンパスにて20クラス開講した。この「英語Ｃ：発展英語」は，問題解決型学習を通して，総合的な英語運用能力を向上させていくことを目的としており，より実践的な英語コミュニケーション力が養われることが期待される。

③ 令和３年度からの教養英語新カリキュラム（群馬大学教養英語コア・カリキュラム）運用を目指して，外国語教育部会員を中心とする教育改革英語WGが発足した。このWGでは，全学共通目的と年次目標を設定し，さらにCan-doリスト（英語学習自己省察ツール）を開発することとなった。また，Can-doリストに関しては，令和２年度より，パイロット的に運用することになった。新カリキュラム導入に向け，教養英語科目における共通評価基準（ルーブリック）の作成と統一カリキュラム・シラバス導入の検討が行われた。

最後に，教養英語科目の名称に関しても見直しを行い，令和２年度から新科目名で教養英語を運営することを決定した。

④　英語学習を管理するためのポートフォリオ導入に関しても検討され，令和３年度に向けて，オンライン・プラットフォームの（再）構築が決まった。

例年同様，希望者対象のTOEFL-ITPの実施（７月，12月の２回実施），ｅ－ラーニングの推進を行った。さらに，ドイツ語及びフランス語の年度末共通テスト（アチーブメントテスト）を実施し，受講学生の学力向上の度合いを客観的に計測した。また，地域貢献活動の一環として，両言語の技能検定試験を実施した。

2.2.2　英語習熟度別クラス編成，及び英語アチーブメントテスト

英語習熟度別のクラス編成は，平成19年度に行ったアンケート調査の分析結果に基づき，平成20年度から，希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施されることになり，平成21年度より，社会情報学部１年・２年，保健学科看護学専攻１年（保健Ａ・Ｂクラス），工学部応用化学・生物化学科１年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成が行われた。平成22年度には，翌年度以降，工学部すべての学科に対して実施することが計画され，平成22年度末に社会情報学部及び工学部の全一年次生に対して，アチーブメントテストを実施した。このデータをもとに，平成23年度の４月には両学部の全新入生に対して，プレイスメントテストを行い，習熟度別クラス編成を行った。平成25年度には，医学部（医学科・保健学科）の新入生に対して，翌26年度には，教育学部の新入生に対してもプレイスメントテストを実施した。今年度も，例年同様，１年次生については１クラス40名以下の習熟度別クラスを全学部で編成し，単位認定者見込み数を差し引いた実質的な履修者数を１クラス34名以下とした。また，平成28年度には，平成29年度以降に入学した教育学部２年生についても習熟度別クラス編成の実施が決定された。この結果，平成30年度には，医学部２年生（医学科・保健学科）を除く，すべての教養英語クラスにおいて，習熟度別クラス編成が実施された。

プレイスメントテスト　平成31年４月１日（月）14：00 ～ 15：20
受験者：教育学部　233名
　　社会情報学部　101名
　　医学部医学科　108名
　　医学部保健学科　160名
　　理工学部　536名

監督:12名（教育学部より２名, 社会情報学部より２名, 医学科より２名, 保健学科より２名, 理工学部より３名，大学教育センターより１名）

2.2.3　TOEIC-IP

群馬大学では平成15年度からTOEIC-IPを継続的に実施しており，外国語教育部会が中心となって，多くの学生のTOEIC-IP受験を促している。

実施は年２回（７月／１月）で，平成21年度からは，申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより，受験料を低く抑えることが可能になった。令和元年度の実施日時，受験者数は以下のとおりである。

１回目：令和元年７月23日（火；17：40 ～ 20：10）実施：受験者　669名
２回目：令和２年１月28日（火；９：40 ～ 12：10）実施：受験者　1,850名

2.2.4　TOEFL-ITP

海外留学を希望する学生にとってTOEFLの成績が要求されることが多いため，群馬大学では平成20年度から，TOEFL-ITPを荒牧キャンパスで年２回（６月もしくは７月と，12月もしくは１月)実施することとした。令和元年度の日程と受験者数は以下のとおりであった。

１回目：令和元年７月26日（金；17：40 ～ 20：05）実施：受験者　11名
２回目：中止

TOEFL-ITPは，10名以上が参加しないと実施できないため，今後も外国語教育部会が中心となって，広報に努力を払い，各学部等の協力を得ながら，参加者の拡充を目指していくこととした。

2.2.5　TOEIC･TOEFL説明会

TOEICならびにTOEFLについて，全１年生を対象に，全学オリエンテーション（４月２日）で説明を行った。

2.2.6　ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験

群馬大学では，ドイツ語，フランス語担当教員の協力のもと，地域貢献活動の一環として，本学学生のみならず周辺地域の受験希望者も受験できるドイツ語技能検定とフランス語技能検定の公開試験を荒牧キャンパスで継続的に実施しており，令和元年度もドイツ語技能検定試験（５級～１級）を１回，フランス語技能検定試験（５級～１級）を２回実施した。実施日時と受験者数は以下のとおりである。

ドイツ語技能検定試験
・実施日時：冬季試験：令和元年12月１日（日）全級（５・４・３・２・準１・１級）
　学内外の総受験者数：46名（複数級併願者含む）
　群馬大学生受験者数：１名（但し，学校名を記入していない本学学生の受験者はこの数値に含まれない。）

フランス語技能検定試験
・実地日時：春季試験：令和元年６月16日（日）（５，４，３，準２，２，１級）
　学内外の総申込者数：52名（複数級併願者含む）
・実地日時：秋季試験：令和元年11月17日（日）（５，４，３，準２，２，準１級）
　学内外の総申込者数：61名（複数級併願者含む）
・春秋の申込者数総計113名

2.2.7　ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト

現在７言語開講されている外国語教養科目のうち，特にドイツ語，フランス語，スペイン語，ポルトガル語などの印欧語族の言語学習は，中学での英語授業時間の短縮，高校での英文法授業の簡略化に伴い，同系語族の文法を論理的に理解する貴重な機会となってきている。また，英語以外の外国語学習は，その言語のみならず，英語や母語を含んだ総合的な言語能力を高め，学習者のコミュニケーション能力全体の向上に寄与することも期待される。したがって教育内容の充実のためには，学習の達成度を客観的に把握することも重要である。

外国語教養科目群のうち，専任教員が在籍しているドイツ語及びフランス語については，学習の進捗を測定するために平成21年度以来実施している共通のアチーブメントテストを今年度も実施した。（週２回１年間４単位（学習時間年間120時間＊）履修可能な授業の中

から，週１回分を主に専任教員が担当するクラスをピックアップし，年度末最終授業時に共通問題で実施（試験時間：ドイツ語45分，フランス語30分**）

ドイツ語共通アチーブメントテスト
・実施日　令和元年１月21日（火）教育学部23名受験
・実施日　令和元年２月３日（月）社会情報学部８名受験
・実施日　令和元年１月23日（木）医学部保健学科４名受験
・実施日　令和元年１月31日（金）理工学部４名受験

フランス語共通アチーブメントテスト
・実施日　令和元年１月22日（水）社会情報学部４名受験
・実施日　令和元年２月３日（月）教育学部21名受験
・実施日　令和元年２月４日（火）医学部医学科11名受験

ここ数年間の傾向は，おおむね以下のとおりである。
＊４単位（120時間）を履修する学生の平均得点は，ドイツ語ではどの学部でも全国のドイツ語技能検定３級合格者の最低得点と概ね同等，フランス語ではフランス語技能検定４級合格者の平均点と概ね同等である。
＊２単位履修者の平均得点は４単位履修者に比べて例年約20点低く，高得点者が少ないうえ，極端に得点が低い者が多い傾向が続いている。
＊クラスサイズが30名を超えると得点が下がりはじめる傾向がある。

教室では，学生の英語以外の外国語に対する興味や学習意欲は十分高いのに，学力・学習能力のみが年々少しずつ低下してゆく傾向が見られる。英語以外の外国語への興味・意欲を保ちながら，外国語の学習能力を高める指導の工夫，少人数授業の徹底，およびカリキュラムの拡充が，今後の課題であろう。また，英語以外の外国語の履修者の方が未履修者よりも，TOEICなどの英語の得点がより大きく向上することを示すデータも徐々に集積されつつある。

2.2.8　理工学部の英語教育カリキュラムについて

理工学部においては，学生の大学院進学率が高く，その進学の合否判定にはTOEICの得点が利用されている。また学部・大学院ともに，卒業・修了後ビジネス界に就職する率がもっとも高い学部・研究科等であり，職に就いた後も英語力を要求されることは必至である。そこで外国語教育部会は平成22年度に，群馬大学の学生のおよそ半数を占める工学部（現，理工学部）学生の英語力を増強するために，大幅な英語カリキュラムの改善を検討した。その結果平成23年度には，教育基盤センター「外国語教育部会」がこれを実行に移した。おもな変更点は以下のとおりであるが，平成24年度以降もこの方策を継承し，さらに，１クラスの受講者数を削減するために，全体のクラス増を実現した。令和元年度現在，計20クラスを開講し，引き続き，１クラス30名以下の少人数クラスでの授業を実施している。
１）週２回（90分×２回）の英語授業を履修させる。
２）前期２単位，後期２単位で，１年次に４単位を取得させる。
３）週２回のうち，１回は文法・読解力の養成，１回は聴解・会話等，コミュニケーション能力の育成を目的とした授業とする。
４）４月入学時にプレイスメントテストを行い，習熟度別クラスを実現する。
５）７月の前期終了時にアチーブメントテストを行う。
６）１月に後期アチーブメントテストを行い，達成度を計測する。

本学では，全学的に卒業要件となる英語の単位は４単位となっているが，基本的な英語力の低い学生については，１年次に４単位を履修させることが望ましい。そのため，週２回の英語の授業で４単位を取得させるカリキュラムを運営している。また授業形態も「読解型」と「コミュニケーション型」の２種類とした。

こうした改変の成果は，新カリキュラムの導入から２年後の平成25年度末のアチーブメントテストの結果に明確に現れた。また，平成27年７月のTOEIC-IPテストの結果は前年度比の伸び率が高く，その原因としては，理工学部における統一カリキュラムの効果に加え，平成27年度より，理工学部の入試に英語試験が導入されたことに起因すると考えられる。さらに，入試科目に英語導入後においても，TOEIC-IPテスト結果は引き続き伸びている。平成27年度以降から令和元年度７月実施の平均点は，H27（433.25点），H28（446.80点），H29（457.60点），H30（467.30点）Ｒ１（462.5点）と着実に継続して伸びている。

2.2.9　教育学部の英語教育カリキュラムについて

平成23年度から小学校第５・６学年の外国語（英語）活動が必修化され，さらに新学習指導要領（平成29年３月告示）により，令和２年度には外国語（英語）活動が小学校第３・４学年に引き下げられ，外国語（英語）が小学校第５・６学年で教科として全面実施となる。そのため，学校教育現場では，小学校教員にも英語を指導する能力だけではなく，ALTとのティーム・ティーチングを行うための英語コミュニケーション能力が求められている。群馬大学教育学部の学生は，基本的に小学校の免許を取得することになっているため，大学における英語教育のさらなる充実が望まれる。

外国語教育部会では，教育学部の教養英語について，令和元年度入学生以降の新カリキュラム実施を目指し，４技能を総合的に鍛えるための統一シラバスの考案，適切な教科書・教材の選定，成績の付け方の統一，ないしは，不公平のない成績の付け方，２年次の習熟度別クラス編成等について引き続き検討していくこととした。

2.3　大学教育センター資料集

１．令和元年度　前期授業評価「学びのリテラシー（１）」集計表
２．令和元年度　後期授業評価「学びのリテラシー（２）」集計表
３．令和元年度　前期授業評価「情報」集計表
４．令和元年度　後期授業評価「情報」集計表

資料１

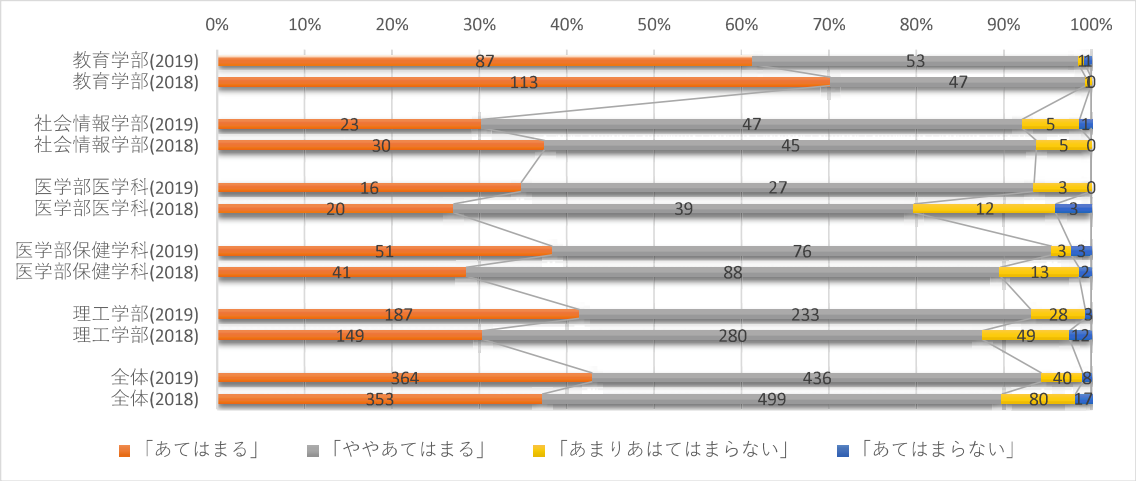
令和元年度　前期授業評価「学びのリテラシー（１）」集計表

区　分	対象者数	提出者数	回収率（%）
教育学部	234 (239)	142 (161)	60.7 (67.4)
社会情報学部	102 (102)	76 (80)	74.5 (78.4)
医学部医学科	108 (108)	46 (74)	42.6 (68.5)
医学部保健学科	161 (159)	133 (144)	82.6 (90.6)
理工学部	540 (529)	451 (490)	83.5 (92.6)
合　計	1,145 (1,137)	848 (949)	74.1 (83.5)

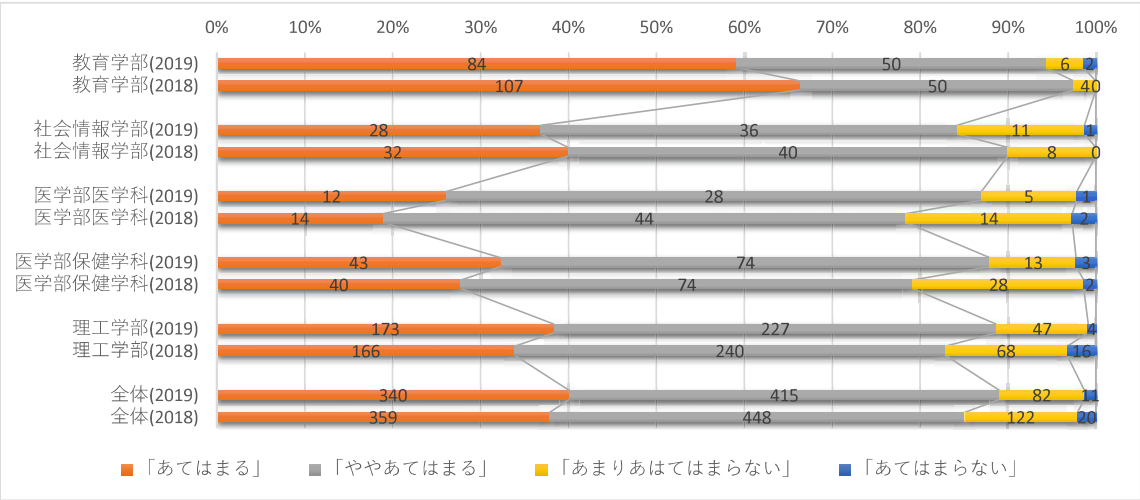
※（　）は昨年度の結果

※評価基準　1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下　同様)

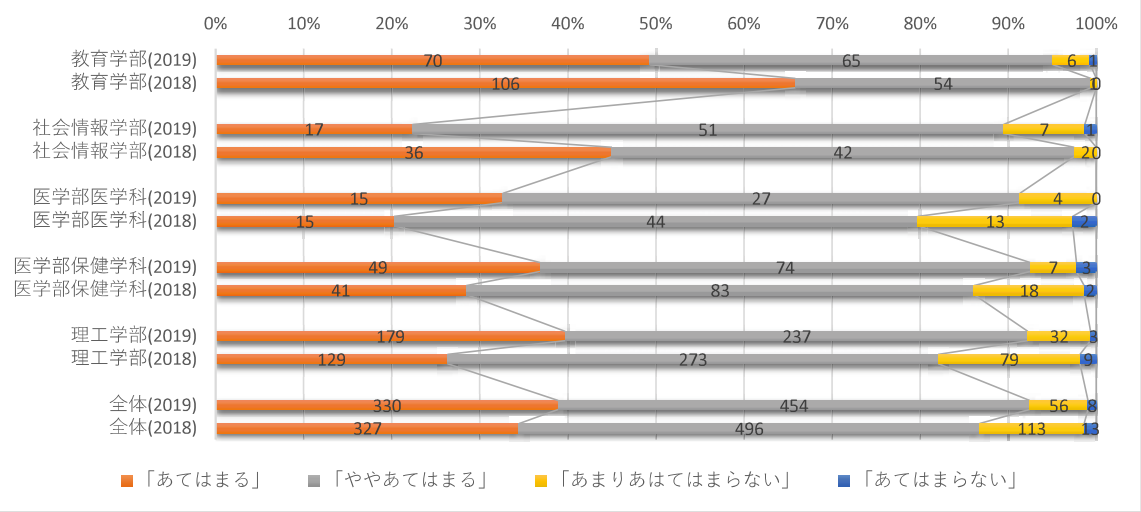
質問　1. この授業によって論理的思考力を身につけることができた。



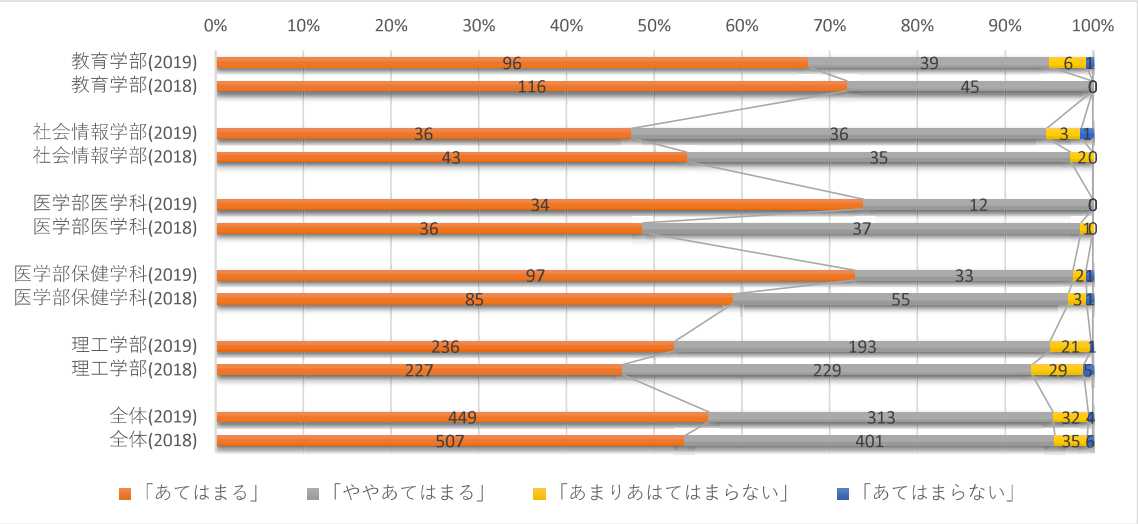
質問　2. この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。



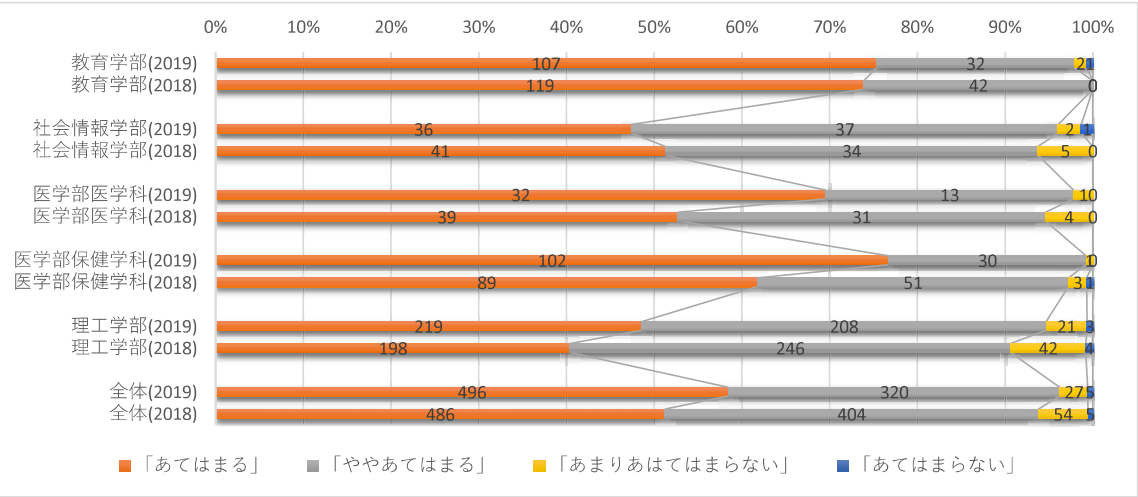
質問　3. この授業によって大学生に必要な日本語の能力を高めることができた。



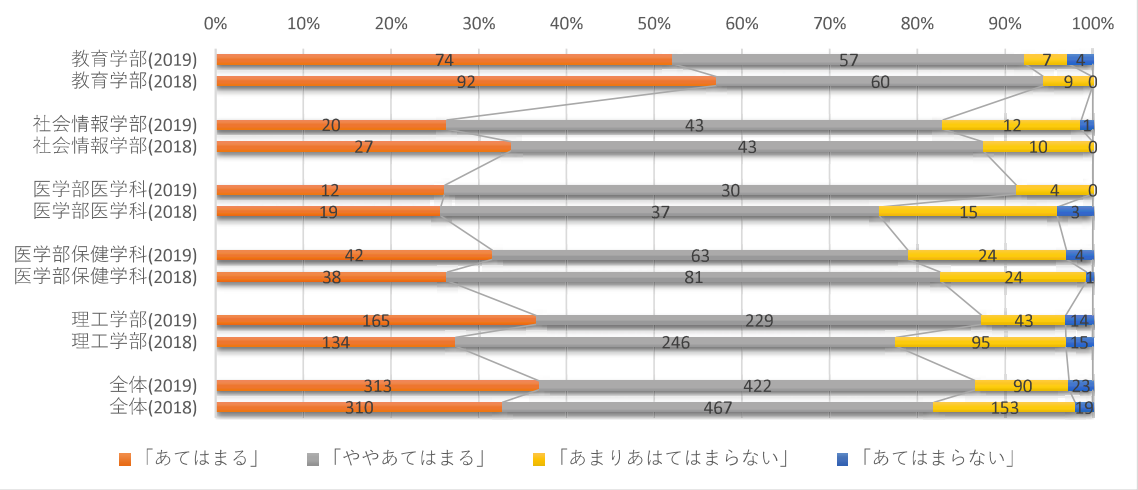
質問　4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方が修得できた。



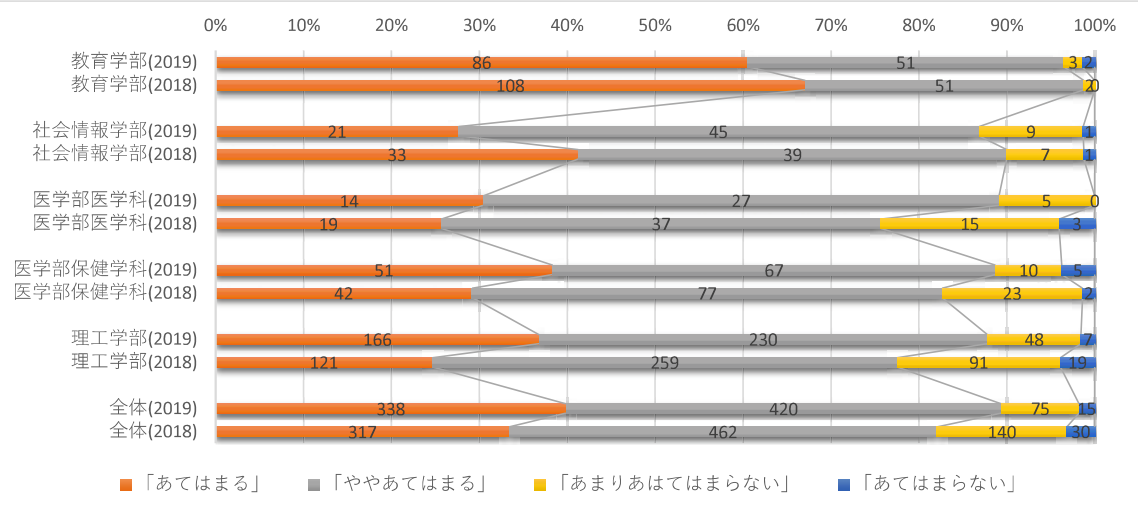
質問　5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。



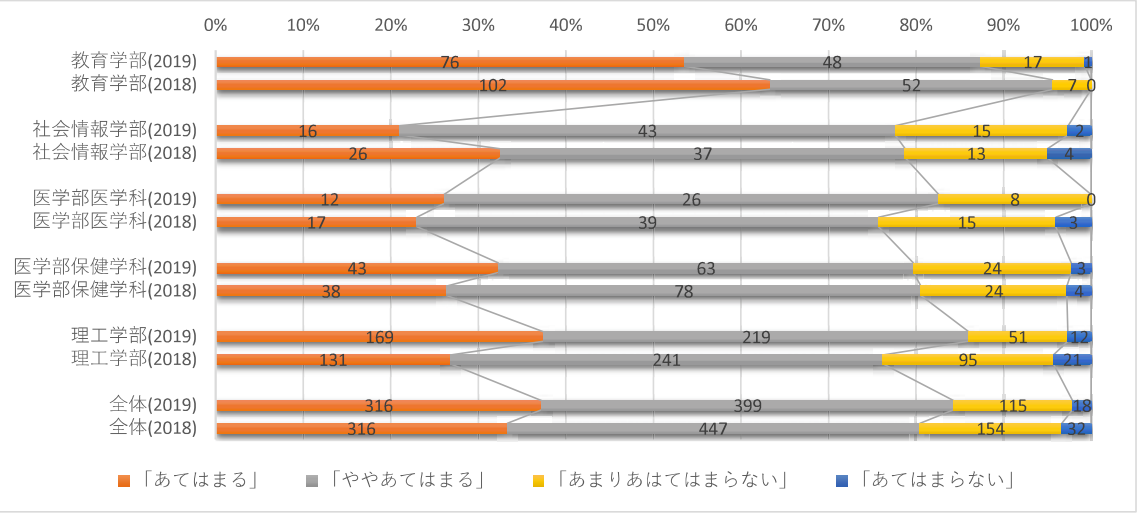
質問　6. この授業で大学での学習方法を修得できた。



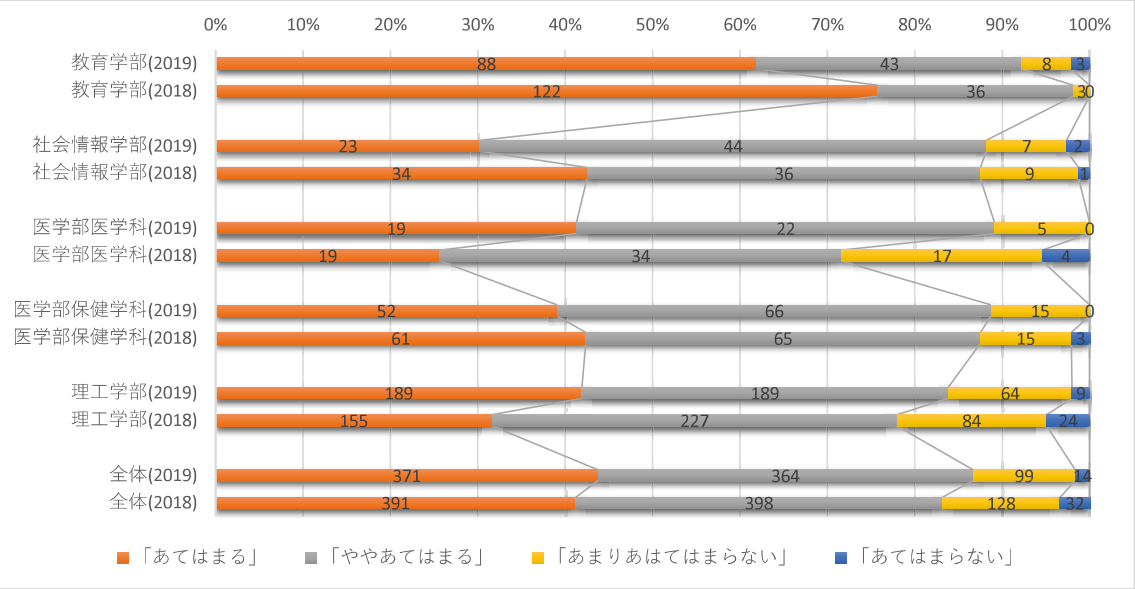
質問　7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。



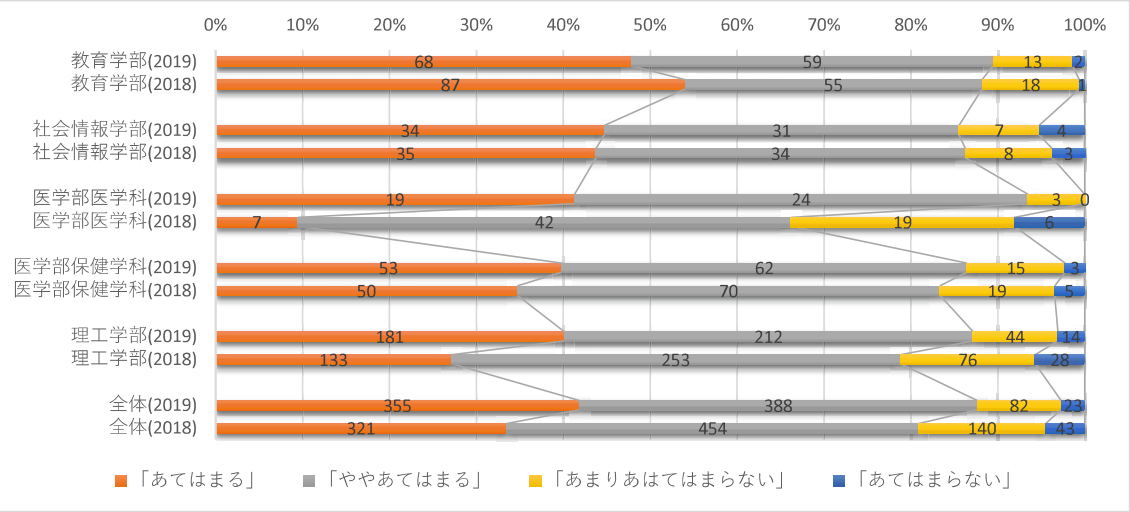
質問　8. 教室での討論は活発であった。



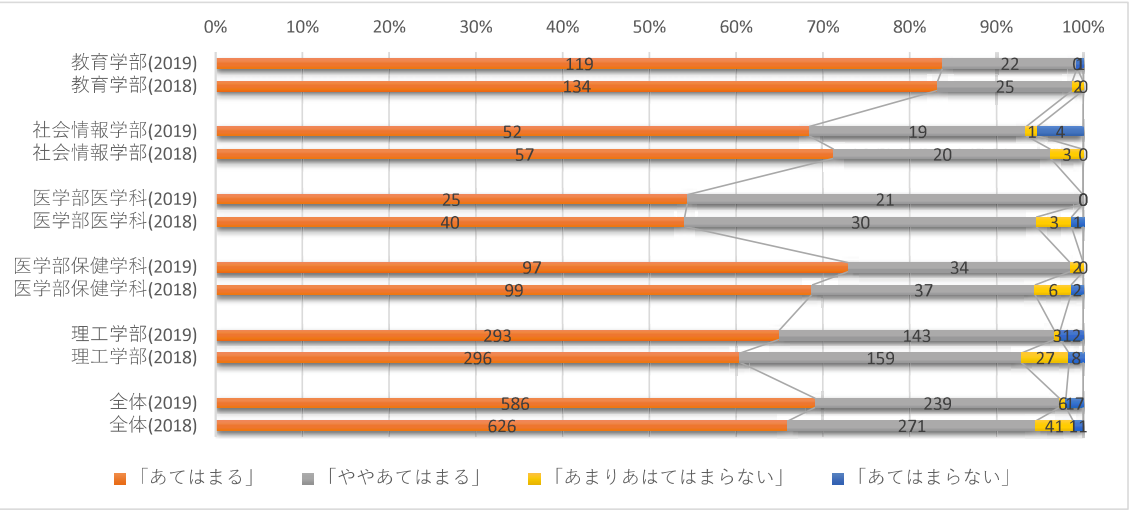
質問　9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。



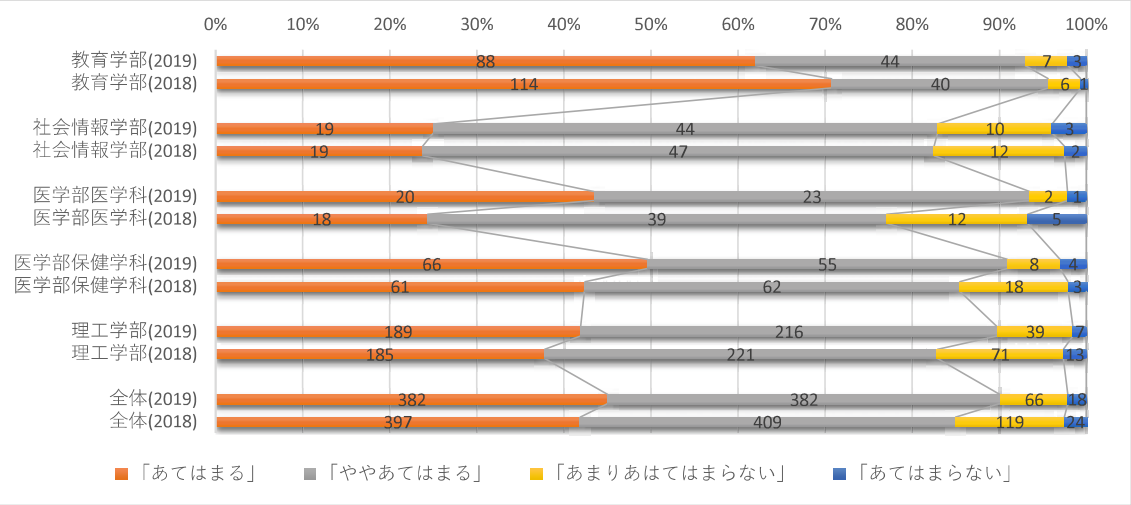
質問　10. 宿題(課題)の内容や量は適切であった。



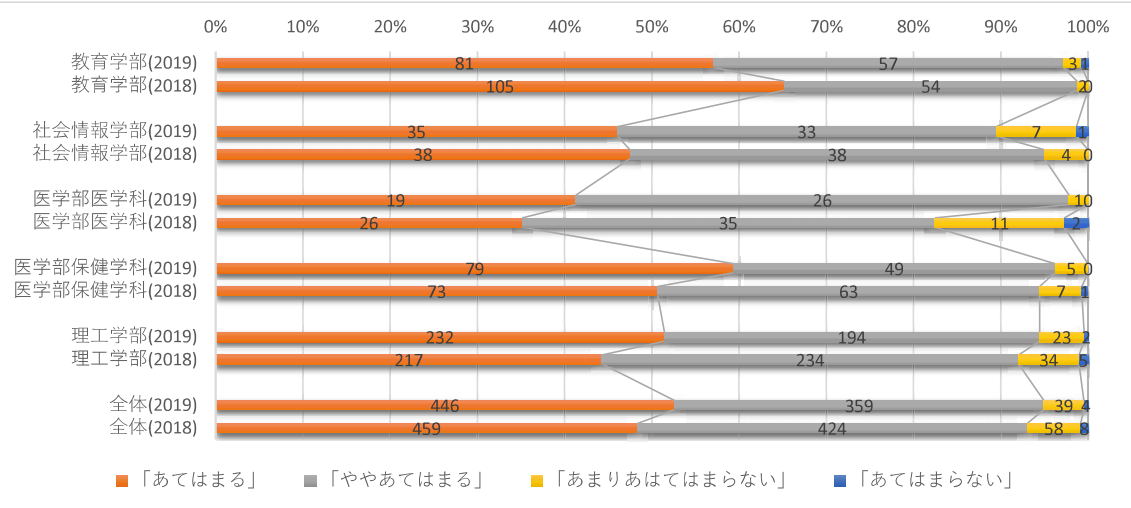
質問　11. グループワークの人数(グループワーク実施しなかった場合はクラスの人数)は適切であった。



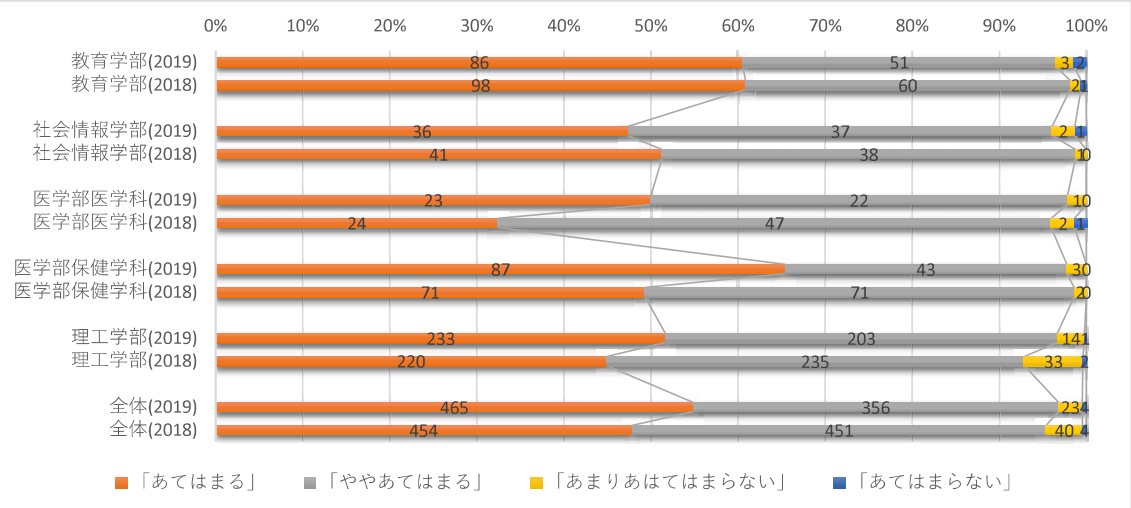
質問　12. 学部の専門教育を学ぶために必要な授業内容であった。



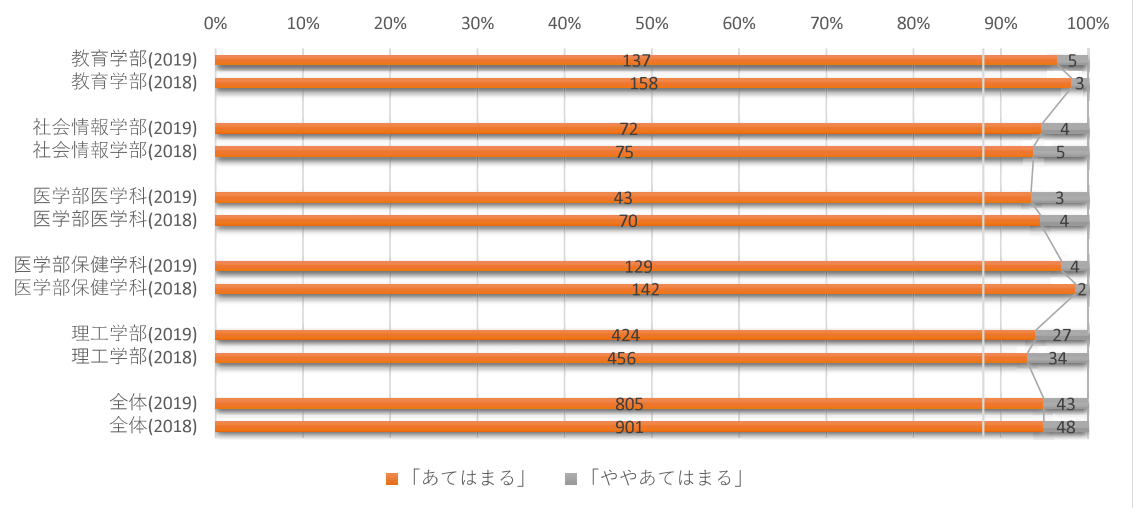
質問　13. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。



質問　14. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。



質問　15. この授業は教員による一方的な講義ではなく,学生の能動的な学修への参加(例えば、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど)を取り入れた授業(アクティブ・ラーニング）であった。



学びのリテラシー（1）に関して，気付いた点，改善すべき点等を自由に書いてください。

質問1．この授業によって論理的思考力を身につけることができた。

論理的思考を身につけようと努力はできました
論理的に考えるとはどういうことか、今までいかに論理的思考が身についていなかったかがわかりました。
論文やレポートを書く、ということになかなか触れることは無かったので、非常に良い勉強になった。 これからの活動に活かせるかは難しいところだが、論理的思考を鍛えていきたい。
論文を論理的に読み書きする手法を学習したので、今後活かしていきたいと思う。
レポートの書き方や最後の自由テーマのレポートを調べる際に様々な資料を調べるにあたり論理的にできたのかなと思います。
クリティカルシンキングの大切さを感じた。
因果関係について特に学ぶことが出来ました。 また、予想される反論を考えるという新たな思考も学ぶことが出来ました。
論文の基本的な書き方を理解することが出来ました。
レポートを添削してもらって書き方が分かるようになりました。
メタ認知に関しては自分に不足しているなと感じる点が沢山あったので、 今後も心に留めてまなんでいきたいと思います。
高まったとは思うのですが、自分自身でもっと高めていかなければならないと思う。
自分の意見を支える文献の引用・参考だけでなく、 自分の意見も主張することを強く意識するようになれたと思う。
話し言葉と書き言葉の違いを学ぶとともに使う場面を理解した
科学者としてやってはいけないことをたくさん学んだ。
今後の研究などに生かせるとても素晴らしい授業だと思いました。
実際に感じることが出来る場面があまりなかった
プレゼンテーションをするにあたっての準備期間をもう少し設けてほしかったです。
どんな事を前期で行い、どのような力を身に着けることを目標にしているのか具体的に明示してほしかったです。

質問2．この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。

グループ内でのコミュニケーションはよくとれた
たくさん話し合いができたので、コミュニケーションが取れたと思う。
グループでコミュニケーションを取る機会が多くありました。
レポートの発表に本気で取り組めたので、班の皆とコミュニケーションがとれた
ほとんどの回でグループ活動が採用されていたので、コミュニケーション能力はついたと思う。
グループで意見交換をする機会が多くあったため、コミュニケーションがはかれたと思う。
同じグループの人と話し合えた。
グループワークが活発で楽しかった
グループワークを行うことで、自分の考えを相手に伝える方法のトレーニングができた。 自分の主張が適切であるか、相手を納得させられるかなどを、 友人と意見を交わしながら実践するのは楽しかった。
グループワークでグループの人とのコミュニケーションの機会がたくさんあった。 ディスカッションの論点をディスカッションの前に説明があったのが分かりやすかった。
グループワークでは自分が作成したレポートや持ち寄った資料を元に発表する形式だったので 自分の伝えたいことを時間内に簡潔に伝える力が着いた。
国語専攻だけで受ける授業であり、グループ活動も多かったので専攻のみんなと仲良くなれる機会が多くありました。
スライドを使っての発表は回数を重ねるごとに言葉が出てきやすくなり、 聞き手を考える余裕を持って話すことが可能になった。
人前で発表する事は嫌いなのですが、回を重ねていくうちに慣れてきたので良い授業であった思います。
プレゼンテーションが中心だったため、プレゼン力は身についたと思う。
プレゼン発表などがあり、実践的で良かった。
最終日の複数の人が同時に発表を行い、好きなところに見に行ける形式はよかったと思う。
発表やプレゼンを通して、話す力を身につけられたと思います。
講義を通して、自分の意見を分かりやすく論理的に伝える練習を積むことができた。
班のこと考えをしっかりと述べることが出来た
演習のとき、日本人と話すチャンスがたくさんあるからとても良かったと思います。
もう少し生徒が自分の考えを発言する機会があるとより コミュニティー力の向上に繋がったのかなと思います。
あの授業からどうやってコミュニケーション能力を身につけることができるのか教えて欲しい。
グループ学習でも特定の人とだったのでそこまでコミュニケーションをとる機会には繋がりませんでした。
敬語の使い方については学べましたが、実際の場面で使えるようになったかというと、 わからないというのが、正直な感想です
コニュニケーションが最後のほうにとれなかった
互いのいいところやアドバイスを伝えあったり、議論したりすることによって人と話す力がついたと思う。 ただ、議論を適当にしてしまう人もいたのでそういった人とうまく議論する方法が見つからなかった。

質問3. この授業によって表現力を高めることができた。

論文を書くにあたって引用する文献について調べたり、語彙力が増えたと思います。
論文を書くにあたって適切な言葉の選択を心がけた。
特に論文やレポートなどで使われるアカデミックな言葉遣いを学ぶことが出来ました。
卒業研究でも使える表現方法を学習できた。
敬語の練習はこれからも役に立つものなので、いいお話を聞くことが出来たと思っている。
敬語などがこれからもとても重要になるからの時に学ぶのは良かったです。
敬語や文章構成について詳しく学べた。実際に訂正することも出来た。
敬語の正しい使い方など学ぶことが出来、今後に行かせるものだった。
書き言葉と話し言葉のプリントを牧野先生から頂けたのが役立った
佐藤先生の言葉遣いが丁寧だったのが印象的でした。見習っていきたいと思います。 三澤先生は私たちに問いかけるような親しみやすい話し方だったなと思います。 プレゼン等で取り入れていきたいです。
WordやPowerPointを使って文章を作る時に、自分の言葉の使い方や繋ぎ方が間違っていることに気づいた。
相手にどうしたら伝わるかがとても難しかったです。
自分の言葉、文があっているのかあまりわからないので、間違っていたら指摘していただきたい。
日本語は難しいので年数かけて鍛えていきたいです
自分の知らない日本語を知ることができた。

質問4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

とてもよくわかりました。
否が応でも付けさせられたけど、結果的には良かったと思う
レポートの作成の仕方が分かった。
レポートの書き方がわかった。
レポートの形式について、しっかりと学ぶことができたと思う。
レポートというのは初めてだったので戸惑ったが、書き方、批判の仕方を学ぶことができてよかった。
レポートを今まで書いたことがなかったのでとても勉強になりました。
今までレポートを書いたことがなかったが、この授業を通してよく分かった。
初めはレポートの書き方を知らず、 形式が違ったが仲間のレポートの書き方を参考にしながら書く力をつけていくことができた。
大学生になってレポートというものを本格的に書くようになって、 初めはどのように書けばいいのか分からなかった部分もあったが、 講義を受けていく中で徐々に書き方等を取得することができて、とても良かったと思う。
この点に関しては本当にお世話になりました。レポートは疲れましたが自信がつきました。
授業で学んだことを生かし様々なレポートに取り組むことができた
レポートにおいて、参考文献の書き方が一様でないことを指摘された。適切なレポートを作るスキルを身につけられたと思う。
色々な種類のレポートの書き方を学べた
大学四年間はもちろん、社会に出てからも報告書やレポートは書くことになると思うので、 この授業で得たことを活かしていきたい。
レポートを書く際に1回の講義を使って、質問できる時間を設けていてありがたかったです。
良い点、悪い点を書いてもらい気をつけるところなどが分かった。
自分で書いてきて、どう書いたら良いかを教えて頂いたことで理解しやすかったです。
見やすい、読みやすい工夫を学べた。
参考文献の書き方が多種多様にあることを知ることができ、 論文を書く上で気をつけなければならないことがわかり、大学生として一歩前進できた
パワーポイントの作り方や発表の仕方を学ぶことが出来ました。
基礎化学レポートにも活用できた。
心が折れそうな時もあったが、とてもためになるものばかりであった。履修できてよかったと思う。
初めての経験が多かったですが、ためになりました。
教科書を手本に取り組むことができた。
完全に理解はできていないと思いますが、少なくとも向上はしたと思います。
完全に修得したとは言い難いですが、以前よりはマシにはなりました。
メールの書き方を初めて習った。
相手に送るメールでは題名に何についてのメールかを簡潔に書くことを初めて知り、 とても役に立った。
正しい日本語の書き方などを学べた。
レポートの書き方についての講義がとてもわかりやすかったのですが、 既に何個もレポートを書いた後だったのでもう少し早めに講義して欲しかったです。
孫引きについてもう少し知りたかった

質問5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。

とても役に立ちました。
小中高では教わってこなかったのでとても勉強になったし これから必要なものなので必ず習得したい。
まだまだ甘い部分はあるとは思いますが向上はしたと思います。
引用の書き方がよく分かった。
引用の仕方が、全くわからなかったが、詳しく教えてくれ、わかるようになった。
図書の引用方法が分かりました。
文献の書き方など参考になった。
文献の書き方を改めて学んだり、引用の仕方を知ったりすることができてよかった。
参考文献の書き方などを学ぶことができた
論文を探したりする機会があまりなかったので学ぶことが多くありました。
論文検索の方法など、今まで知らなかったことを学ぶことが出来て良かったです。
医中誌ウェブの使用法や引用のルールを学ぶことが出来ました。
ネット上と本での参考文献の書き方に差があることを知った。
インターネットからの情報は、アクセスした日まで書くとは思っていなかった。
情報源を批判的に見える技術を学んだ。
剽窃などを行うことのないよう気を付けたい。
違法だと初めて知ったのでこれから気をつけたいです。
誤った引用の書き方をしていたので、改めて学ぶことができてよかった。
図書館の司書さんが話してくだっさお話はとても重要だった。 不正のないレポートを作っていると胸を張って言える人になりたい。
自分のテーマに合う図書を選択するのは少し難しいと感じた。
自分が欲しい情報を得るのは思ったより難しかった。
パワーポイントの資料でわかりやすかった。
ciniiの検索でヒットしたが見れないものもあったのでその対処も知りたかった
ウェブ上から情報を引用した際の記入方法をより詳しく書いてほしかった。

質問6. この授業で大学での学習方法を修得できた。

レポートや発表など、いわゆる大学らしい授業を経験出来ました。
毎回のレポートの中に「大学での学び」を考えるように示されていたので 毎回大学での学び方を考えられた。 他の人のレポートを読むことで自分では思いつかないことも学べた。
ノートの取り方などもわかりやすく教えていただいた。
特にファイリングの大切さを学んだ。
もっと計画的にすべきだと反省した。
自らが主体的に問いを立てそれについて考察することを学んだ。
授業の効果的な受け方について考えた。
大学生とはどうあるべきかがよく分かった。
勉強法についてはあまり触れていなかった気がした
サイニーでの上手い論文の探し方がわからない。
大学での学習法は人それぞれであり、この授業で学べたかというと、 そうでない気がする。

質問7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

自分の疑問に思うテーマについて考えることができた。
自分でテーマを選べたのでモチベーションに繋がりました。
自分の興味があるテーマを研究できたのでよかったです。
自分でプレゼンテーションのテーマを決めることができたので、興味を持って調べられた。
それぞれのレポートから学ぶことがたくさんあった。
自分の専攻に関連した内容の実戦報告書が教材だったので、 レポートを書いたりグループで考察したりしやすかった。
自分の興味のある内容について調べ、発表することで、自分にとってもプラスになるため良かったと思う。
興味深い文を例などにとりとても分かりやすかった
初めの週から課題の量が多いことが少し気になったが、 将来教員になるためには必要なことなのかなと思った。
大学では高校と違い、自分から学ぶ姿勢を持たねばならないと思った
情報の読み取り方によって、伝わる内容が変わるということが興味深かった。
私たちがわからなかった時、先生方が質問しやすい環境作りに 配慮していただいたおかげでとても良かった。

質問8. 教室での討論は活発であった。

他者の発表に対して様々な意見が挙がっていた。
最後の発表の時間では、特に質問等が多く活発であったと思う。
グループワークの際に論点や進め方の説明が事前にあったのがわかりやすく、 活発に討論できたと思う。
グループ活動が多く、必然的に討論できる機会があった。
発表のときは質問が積極的にでてたと思います。
グループで討論が多く、活発であった。
パワーポイントの質問の時間が自分の気づかなかった点についても触れられていた。
やる気のある班とない班の差が激しかった。
グループによっては差があった。
グループのメンバーによる。
初めはまだ仲が深まっていなかったので、難しいところもありました。
質問や意見がより活発になればいいと思う。
席順が話しにくい形になっていたので、みんなの意見を聞くことが出来なかった。 特に情報処理室では場所が離れすぎていて討論どころではなかった。
もっと話したら良かったと思います。
時間より早く終わってしまう場面が多々あった

質問9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

グループ活動、スライド発表が盛んであった。
グループワークが多く、専攻のみんなとたくさん関わることができました。
グループワークがたくさんあり、同じ専攻の人とコミュニケーションをたくさん取れた。
何回も班替えがあったのが、様々な人の意見を知れてよかった。
主にグループでプレゼン発表の準備のためコミュニケーションを取り合っていた。
先生もグループセッションに参加して発表を聞いてくれたので、アドバイスをもらうこともあった
グループに分かれて討論をする機会が多かったため、話したことのない人とも自然と話すことができた。 また、講義の際は先生方が生徒にも意見を聞いてくださっていたため、様々な考えを聞くことができた。
自分の発表に対して、生徒と教授から意見をいただけたので、参考になりました。
教員とはあまりなかった気がする
レポート、パワーポイント関連で、先生方に質問に行けばよかったと後悔している。
とる人ととらない人に差があったと思う
班のメンバーとの意見交換はできたが、それ以外の学生とはあまり話さなかった。

質問10. 宿題（課題）の内容や量は適切であった。

大変だったが、こなせない量ではなかった。
能力を身につける上では適切であったと感じる。
授業で取り扱った内容に準拠し、適切な量の課題であった。
週1ぐらいのペースだったので適当だった
多かったが、それくらいしないといけないと思ったから。
レポートにおわれるという大学生らしさを感じることができました。
計画的に課題を進めていこうと思いました。
毎週のレポートは大変でした
大変でした。
サークルやバイトが忙しい人、通学に時間がかかる人は大変な週もありました。
テスト期間にレポート10枚とパワーポイント作成は現実的に厳しかったです。
少し多いように感じた。
1番初めの課題の参考文献の量が多く感じた。 また、最後の課題は提出期限がテスト期間とかぶるため、 前もって伝えてもらうか、もう少し早めに課題を出してほしかった。

質問11. グループワークの人数（グループワークを実施しなかった場合はクラスの人数）は適切であった。

ちょうどいいと感じた。
話し合いがしやすい人数でした。
少人数だったのでやりやすかったです。
少なくとも、多くともなく適切であったと思う。
多すぎず、少なすぎずでグループワークがしやすかった。
発言する人に偏りが出来ることもあったが、意見交換しやすい人数だった。

全員が程よく話せ、まとめやすい量でした。
四人は時間的にちょうどよかった
4人の少人数で行うことで話し合いが円滑に進みやすかったです。
4人という少人数制であったため、各個人が自分の意見を言いやすい環境にあったと感じました。
5～6人は適切であった。
6人程度がちょうどよい
6人のグループで各自よく意見の言える人数構成だった。
常に欠席をする人が居たため、3人でやることが多かった。
もう少し少なくてもよかったと思う
最後の発表は、同じ班になったことのない人の話を聞きたかったが、 全員の発表を聞けたわけではなかったので、 班編成のしかたを一度は全員と同じ班になるようにしていただけるといいのかな、と思います。

質問12. 学部の専門教育を学ぶために必要な授業内容であった。

より教育についての考えを深めることが出来ました。
教育への関心、理解は深まりました。
障害児教育の実践報告書が教材だったので、 障害児教育について専門的な実践方法を知ることができた。
理工学部にとって必要な内容もあった。
実験のレポートの書き方は初めて学んだので、説明受けるとこが出来て良かった。
今後、多数書いていくレポートや、プレゼンの練習ができた。
レポートなどはこれからの授業で必須なので必要だと思う
他人の意見を聞き、自分の意見を言うということが出来た。
専門教育を学ぶためというよりは、人間として生きていくのに必要でした。
専門性はあまり感じられませんでしたが、学生あるいは研究者として必要な能力の習得に繋がりました。

質問13. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。

出席して大半の授業は意欲的に取り組んだと思う
中身の濃い授業でとても勉強になった。
重要なことを学習できました。
これからの大学での学びで必要な知識を得れる授業だったから。
優秀者という目標が設定されており、友人と競い合う感じが良かった。
課題を真面目に取り組むことが出来たと思います。
課題提出はもちろん、プレゼン発表も積極的に行った。
前期を通して、どのレポートにも真剣に取り組めた。 また、報告の際は皆に聞いてもらえるような工夫を頑張った。
レポートやパワーポイントの課題を積極的に行った。
より良いレポート作成ができるように、講義の内容を理解し習得に努めたと思います。
課題に取り組むのが提出期限ギリギリになってからの時があった。
代表者を選ぶ際に、同じ意見・点数である場合の説明がなかった。 成績に関与するものだから明確にしてもらいたかった。

質問14. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

日程表などによりゴールまでが明確であった。
シラバスで詳細まで内容が書いてあり、わかり易かった。
シラバスをあまり読んでない

質問15. この授業は教員による一方向的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなども含みます）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。

他の生徒とのコミュニケーションが多くとれた。
大学内の授業で1番アクティブでした。
受動的に生徒が行動できる授業でした。
グループワークが主に中心でとても良い授業でした。
グループワーク、質疑応答などが個人的に楽しかった。
学生によるグループトーク、発表を施していたから。
発表や話し合いなどもあったので学生も参加できていたと思う
班別の意見交換を活発に行うことにより、意見の多様性を感じることができました。
クラス内だけでなく、教授からも意見をもらえる機会があり、 改善点など自分では気づかない点に多く気づかされました。

教員の方による。
当てはまらない時もあった

質問16. 学びのリテラシー（1）に関して，気付いた点，改善すべき点等を自由に書いてください。

何度も論文のコメント付けを頼んで、忙しい中とてもお世話になりました。 大変でしたが、前期の中で1番ためになった講義だと思います。ありがとうございました。
大変な教科ではあったが、とてもためになるものばかりで、論文の書き方を学べてよかったと思う。 ありがとうございました。
特になし、正直受ける価値があるのかどうか疑問に思う講義もある中で、 この講義は学べたことなども含めて非常に自分の糧になるものだと思った。
大学らしいレポートや発表などを経験できる授業でした。 ありがとうございました。
この講義は、自分にとって非常に有意義なものになりました。 頑張れば頑張るほど先生がコメントをくださるため、モチベーションを保つことが出来ました。
将来に役立てることのできる授業内容だった。
入学後に改めて自分の進みたい道を確かめることができる授業だった。
将来に役立てることのできる授業内容だった。
入学後に改めて自分の進みたい道を確かめることができる授業だった。
これからの大学の学びのために必要となるレポート作成や、発表についてを学ぶことができる授業だった。 専門教育に活かしていきたい。
コミュニケーション力を高めるためには良い授業でした。
講義内容や方針は学生の為に考えられており、学習しやすく能力の向上が期待できるものであった。
改善すべき点は特に見当たらず良い講義だと思っている。
改善すべきところはない。とても良い授業だった
改善すべき点は特にないと思います
この講義は自分にとってとても必要なものであった。
楽しかったです。ありがとうございました。
今のままで良いと思います。
ためになりました
自分を見直す機会になりました
大学らしい授業だったと思う
大学生として学ぶ上で必要な心構えや常識を知ることのできる有意義な講義であったと思う
今までこのような授業は受けたことがなかったのでとてもためになりました。
大学生活の基礎を学べたように思う。
大学の講義とはどういうものかを学べるよい講義だったと思う。
この授業本当に大学の生活に役に立つと思う。
大学の今後に役立つ能力を得る事が出来た。
この講義を通して、大学生にとって必要なスキルを身につけられることができたと思う。
大学で様々なことを学ぶ上で大切なことを学んだ。 また、その学んだことをまとめ、発表する体験を通して、 自分の考えを表現することの難しさがわかった。
専門性ではなく、一般的な教養の向上に繋がる効果的なものだと感じました。
将来に直接結びつくような学びができたと思う
この講義によって今まで欠けていた常識などを学ぶことができ良かった。今後もこの講義で学んだことは 行かせると思う。また、コミュニケーション能力もついたと思う。
色々なことを学べたので、とてもためになりました。
勉強だけでなく様々なことに通じることを学ぶことができた。
自分たちでレポート作成をして、その内容をPowerPointにまとめて 周りの人達に発表するということはとてもいい経験になり、 今後の大学生活にも必要な講義だと感じた。
様々な力が身についたと感じた。
自分の興味のある分野をより深く学ぶことができて良かったです。
慌ただしくはありましたが、様々なテーマがあり、大変勉強になりました。
初めは文章が書けなくてしんどかったですが、 終わってみればなんだかんだ興味深くて楽しい授業だったように思います。
他教科の課題などと鑑みると、少し大変だったが、 周りの学生がどのような考えを持ってるのかなどを知ることができてとても良かった
濱田先生にコメントを貰うと心が折れる以外には特にないです。そのコメントもめちゃくちゃためになってま す。
自分の知識、能力が未熟だったために、 レポートのコメントの際にあまり内容に触れたコメントができなかったのが残念だった。 もっとさまざまなことについて勉強したいと思った。 ありがとうございました。
課題が多くて大変でしたが、必要な力を身につけることができたと思います。
学生一人一人に対してとても丁寧に指導していただけたので、大変力になりました。
レポートの書き方やプレゼンの仕方がわかった

レポートの書き方などを学ぶことができた
レポートの書き方の基礎を知ることができてよかった。
レポートの書き方を学ぶことができてよかったです。
レポートの書き方を初めて学べたのでよかった。
レポートの書き方が初めよりも上手になったと思う。楽しい授業でした。
レポートなど基本的なことから教えていただけたので、とても勉強になりました。
レポートを書く機会がたくさんあったので、ある程度のノウハウは身につけられたと思う。
レポートの書き方、参考文献の引用の仕方を学ぶことができた。
レポートの書き方とかコミュニケーションのとり方みたいなのを学べた。
レポートの作成方法について知ることができた。グループ活動を通してコミュニケーション能力が向上した。
レポート関係の授業は今後に有用な授業であったと思う。
これから色々な論文やレポートを書くために必要な能力を身につけることが出来たのでよかったです。
レポートの書き方、書籍等から情報を得る方法、 PowerPointの作り方などレポートに関することをかなり知ることが出来たと思う。
ワードやパワポなどを使ってレポートやプレゼンの方法を実践的に学べたので良かった。
毎週レポートを書くのは大変だったけれど、 良いトレーニングになった。もっとやる気の差が埋まると良いと思った。
レポートが多いのは正直大変でしたが、必要なことだと思うので、来年以降も続けてあげてください。
文章を書く機会が多く、書くことに慣れることができました。
大学生になってまだ分からなかったレポートの書き方を教わったり、 グループワークが出来たりと充実した授業でした。
論文やプレゼンの仕方を学び、最後にそれを活かせたのが良かった。
文章の書き方や使い方からプレゼンテーションまで様々な活動を通して理解を深めることができて良かった 。
初めてのレポート課題があったのがこの授業だったので、驚きました。
レポートを書く際に講義内容が役立った。
プレゼンテーションやレポートの作成に至るまでに、敬語やレポートの適切な書き方など、 日常で誤解している点の多い箇所について細かい説明をして頂けて、とても助かりました。
私は大学に入学してすぐ、レポートの書き方が分からないと不安になっていたが、 書く構成や引用文献の載せ方など細かいところまで学ぶことが出来たため、 他の講義ででる課題をスムーズに進められるようになった。
レポートの書き方や引用の方法が高校生の時と違うことに気づき、知ることができました。 発表の機会もあり、卒業論文発表の練習になった気がします。モチベーションも上げることができました。
伝える相手によって文章の書き方、レポートの書き方を変える必要があり、 それぞれの目的に合った書き方、そのルールが存在する、ということが分かり、よかったと考える。
ファイルはどのようなものがいいかから、レポート、パワーポイントまで様々なことを学ぶことができて よかった。ただレポートなどで課題も残ったので、今回の反省を生かしていきたい。
できればもっと早くレポートの書き方について学びたかった。
毎回同じようなこと毎度繰り返し言っているだけで、あまり利益はないと感じた。 講義回数を二回減らして、レポート作成回数を増やすべきであると感じる。
問いを立てるのが難しかった。レポートの書き方について授業で学んだり自身のレポートのテーマを 練っていたりしたときに突然レポートの仮原稿を持ってくるように言われ、手をつけるタイミングが わからなかった。
お互いのレポートを評価した意味をあまり見いだせなかった
新書を読んで考えたことを報告するレポートが複数回あると、最終レポートの練習・タネ探しに繋がると思っ た。(よりスムーズに最終レポートの執筆に繋がる)
引用方法をもっと早く教えて欲しかった
要約で取り上げた課題と、文字制限があっていない気がした。
中和滴定のレポートの課題で、考察でつまずき、レポートの構成、言葉選びのチェックがおろそかになっ てしまう生徒が多く、「レポートの正しい書き方」という本来の目的から少し外れてしまっていると感じました。
論題をしっかり選ぶべきだったなと今さら後悔してます
スライドの作り方が学べてよかったです。
自分が普段無意識に使っている日本語がいかに不正確なことかを気づくことができる良い授業だった
話し合いは適切だった
グループごとに話し合いが活発にできる
グループディスカッションなどの機会が多く、とてもためになったと思う。
グループワーク楽しくできました。
グループで行うという形が自分にすごく合っているということに気づいた。
自分たちで何かを発表できる能力がついたと思う
さまざまな演習を通して、自分のコミュニケーション能力などの向上につなげることができたと思う。
理化学研究所などへ行きさらにプレゼンなどをしてチームワークを深められた。
グループでの結束力がプレゼンテーションに表れていました。 失敗を反省し、改善点を考えることができました。
グループトークの時間を増やしても良いと思った。
グループワークはもっとたくさんあげたらいいと思います。 そうしたら、他の学生とコミュニケーションする機会がもっと多くなります。
グループワークの際、人数に対してのグループ内発表の時間が、少し長いように感じた。

教養科目でのレポート提出に非常に役立った。 グループワークをもう少し増やすとディスカッション能力などが育つと思う。
同じグループの人とはたくさん意見を交換できていいと思った。 だからこそもう少しグループ同士でのディスカッションなど、 より多くの学生と意見を交わせるようにしてもいいと思う。
グループワークのメンバーが毎回同じであったため，他の人の意見も聞きたいと感じた.
違うクラスの同じ学科の人と話す機会があってもいいと思った。
同じクラスにいなくてもみんながお互いを知ることができるように、 各グループのグループメンバーを変更する必要があります
知り合いを増やし様々な意見を聞くという意味では、 複数班での活動機会がもう少しあるといいと思いました。
発表の時間が5分とされていたが短いと感じた。内容が薄くなってしまった。
発表を短い時間でまとめるというのも大切なことだと思うが、 起承転結を意識した構成にすると5分という時間では 内容が薄くなってしまうのでもう少し発表を時間をのばしてほしい。
討論の時間の延長。
プレゼンテーションの演習では、いきなり本番をするのではなく、 少しの時間でもいいので、本番前の練習時間を与えてほしかったです。
プレゼンテーションが難しかった。
できることなら、パワーポイントを準備する時間を減らして、 その分発表の日を早めて授業の最終日が早まって欲しかったなぁと思いました。
座学の説明を聞く時間が多かったので、話し合いや問題を解く時間を多く設けて欲しかった。 課題は自分なりに本で調べたりして知識を増やしながら真剣に授業を 過ごせたのではないかと思った。
もう少し話し合いを効率的にとりくむべきだとおもった
グループで討論する際に後ろをむくのが大変なので教室の場所を変えると良いと思いました。
同じ専攻の友人とはグループワークで意見を交わす機会が多く良かったのですが、 自分のレポートの書き方や考え方について先生の評価をもっと聞きたいです。
グループによっては活動の盛んさに差があり、苦しい状況もあった。 自ら解決するのが一番だが助け舟を出して欲しい場面もあった。
初めの頃は情報量が少なく、よく分かっていない状況でレポートなどを書かなくてはならず、 非常に困った部分もあったので、もう少し課題にヒントがあると良いと思われる。
時々、説明不足な点が見られた
教員同士の意思疎通や意見のズレが本当に少しだけあったことが気になりました
講義をする教授によって説明の内容に差があるのが気になりました。
矛盾なことを言っていることやっていることがしばしばあり印象が悪かった。 教師が手本とならなければいけないのにどうしたものか。
もっと、生徒に質問をしてもいいと思いました
宿題が多いと思いました
3回に1回クラス分けをして少人数で活動したことは良かった。 ただ、採点基準がかなり曖昧だった。
授業内容が少ないように感じた。90分の中にもっと多くの情報を盛り込めると思う。
出席カードに質問を書いた後に、次の授業の際に全員に回答を共有してくださっていたことが良かった。
遅刻への対応の厳格化
時間をもうちょっと守って欲しかった。
授業開始時間に着席していない生徒が目立つので、 大学で指導することではありませんが生徒の授業に対する意識を変える必要があると感じました。
とくにないが、強いて言うならば教育実習の事前指導と時間帯がかぶっていたので 隔週になったりかなり日数が空いたりすることがあった。
ずっと2人での作業の時もあり、授業に出ている意味が分からないことがあった。
レジュメをmoodle にあげてほしい

資料２

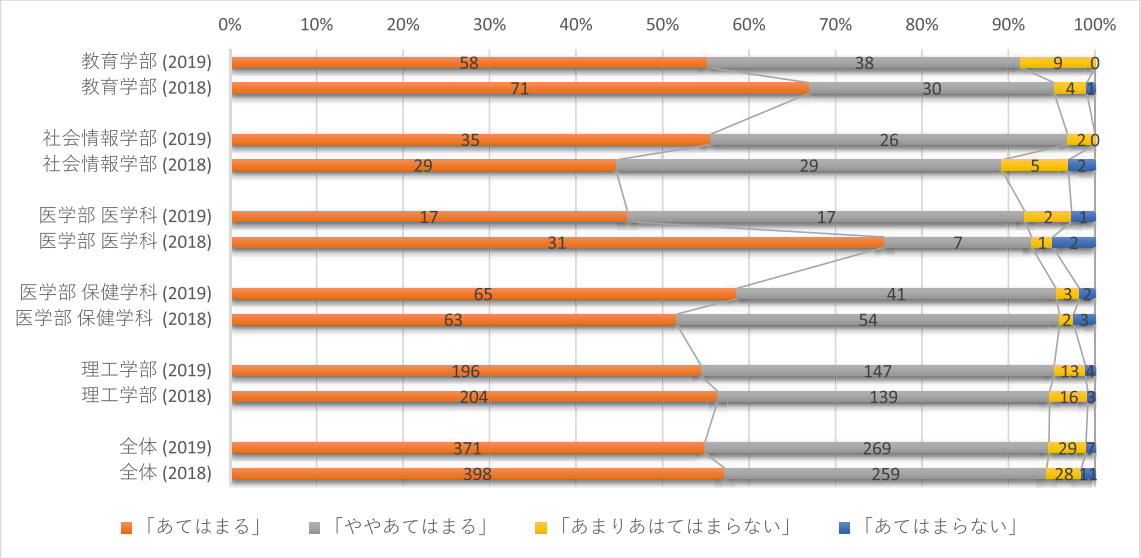
令和元年度　後期授業評価「学びのリテラシー（２）」集計表

区　分	年度	対象者数	提出者数	回収率（%）
教育学部	2019	231	105	45.5
	2018	(241)	(106)	(44.0)
社会情報学部	2019	104	63	60.6
	2018	(103)	(65)	(63.1)
医学部 医学科	2019	109	37	33.9
	2018	(108)	(41)	(38.0)
医学部 保健学科	2019	160	111	69.4
	2018	(160)	(122)	(76.3)
理工学部	2019	542	360	66.4
	2018	(526)	(362)	(68.8)
合　計	2019	1,146	676	59.0
	2018	(1,138)	(696)	(61.2)

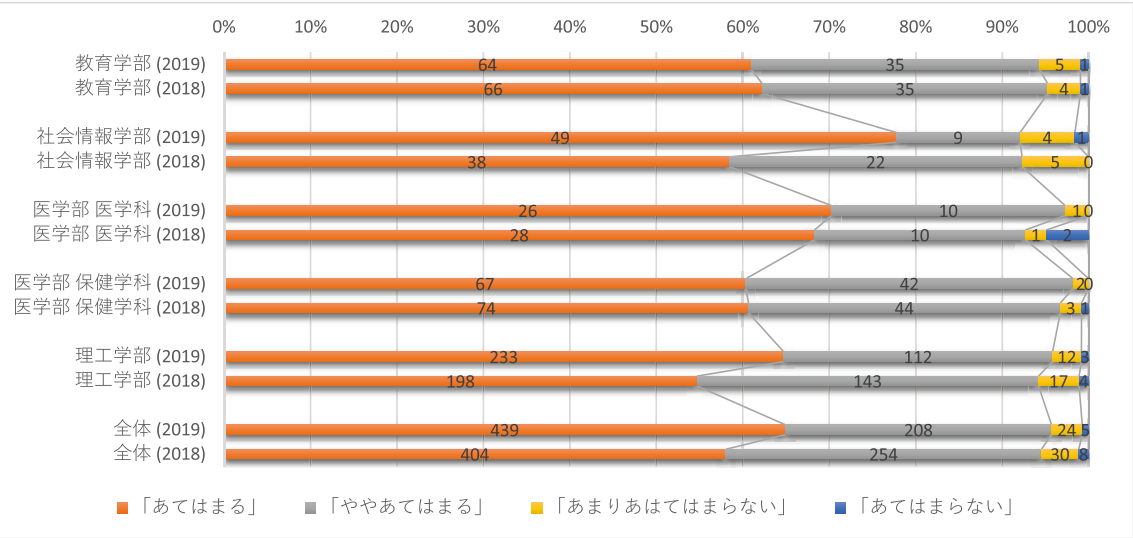
※（　）は昨年度の結果

※評価基準　1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」（以下　同様）

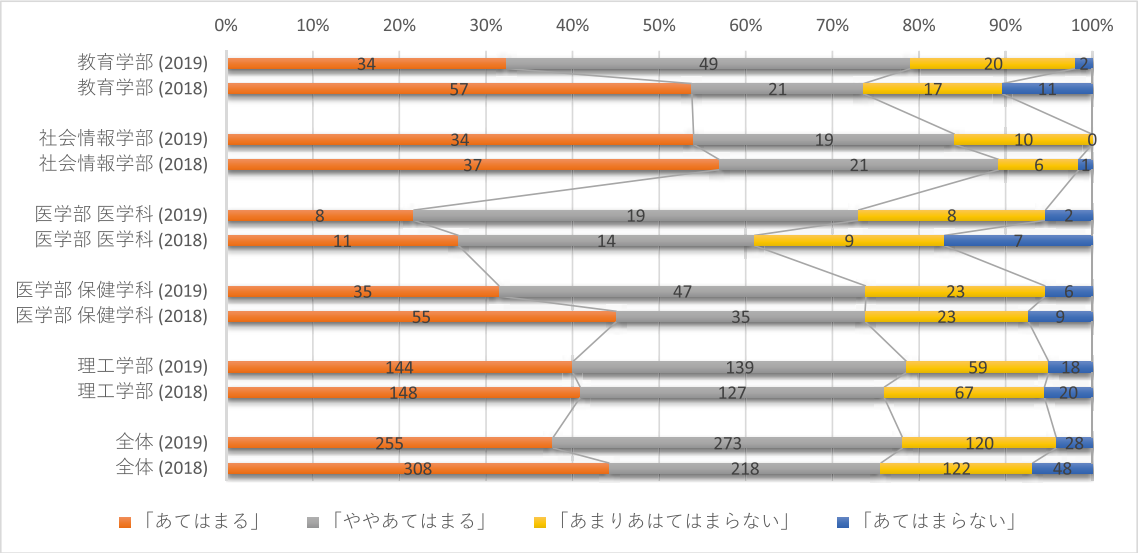
質問　1. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。



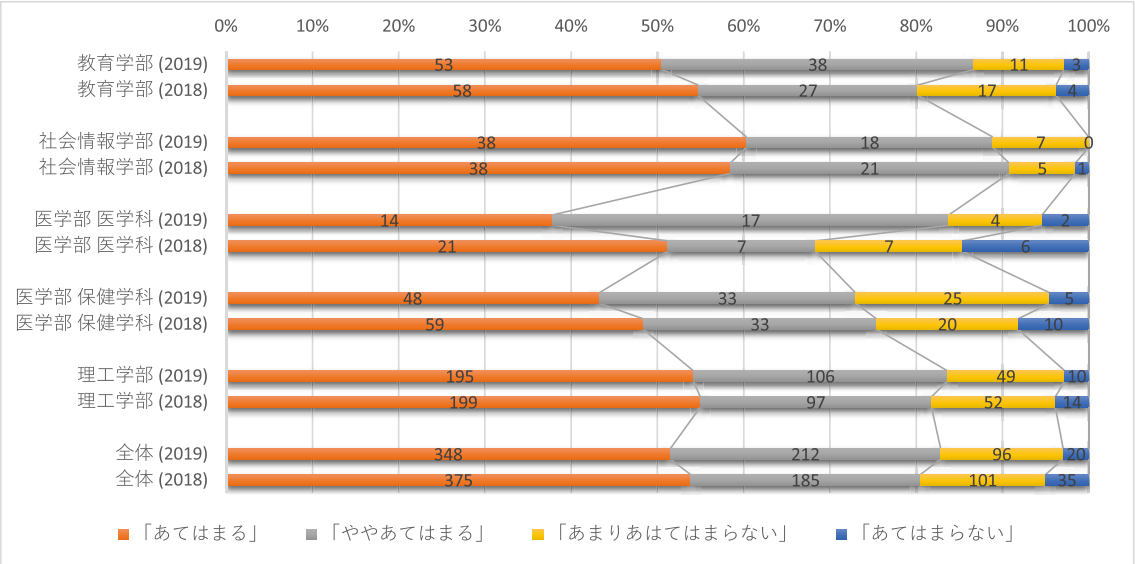
質問　2. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。



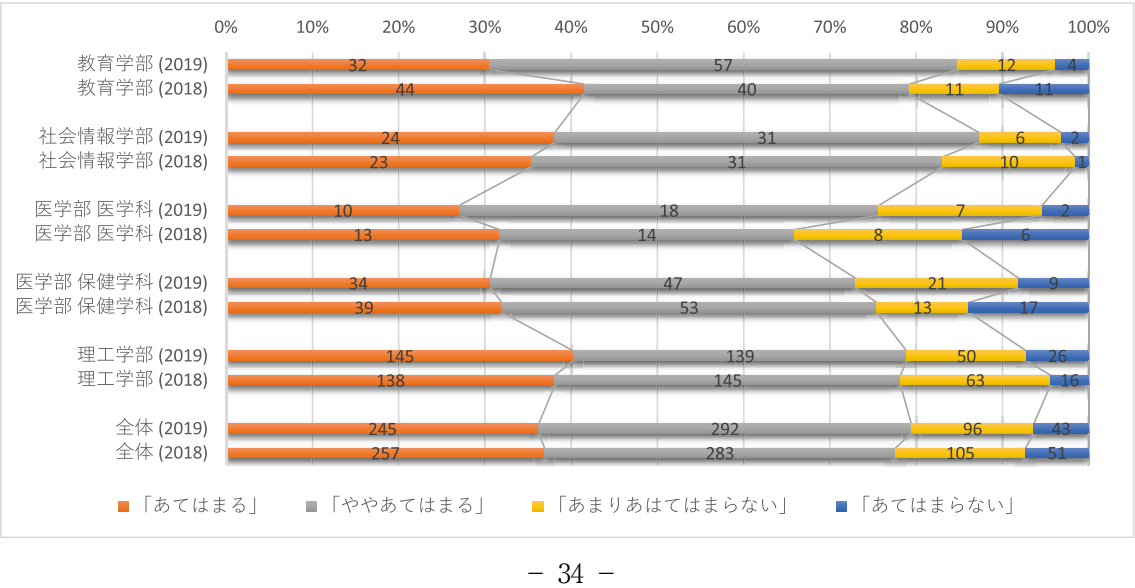
質問　3. 教室での討論は活発であった。



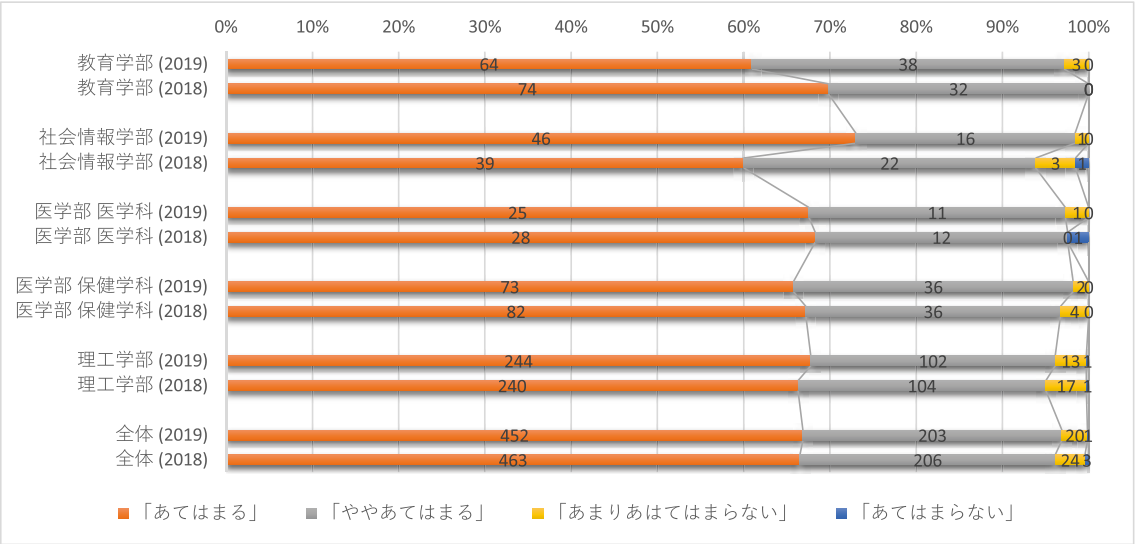
質問　4. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。



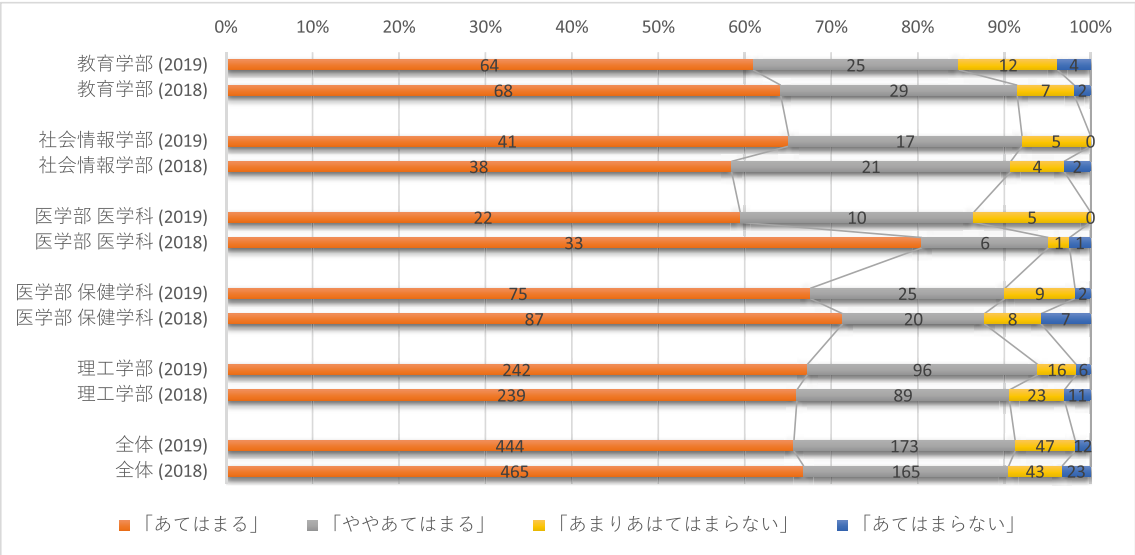
質問　5. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。



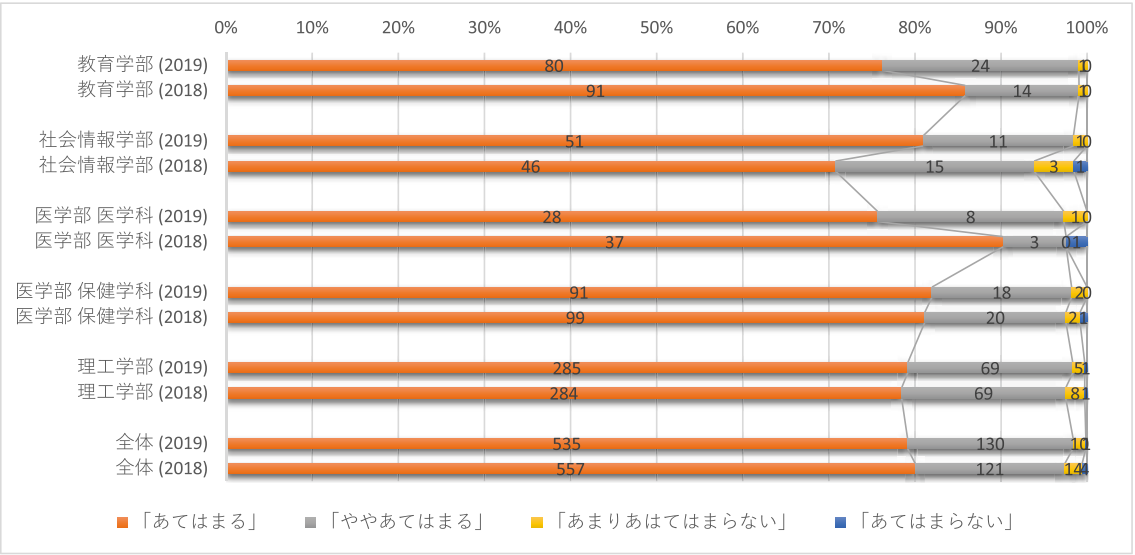
質問　6. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。



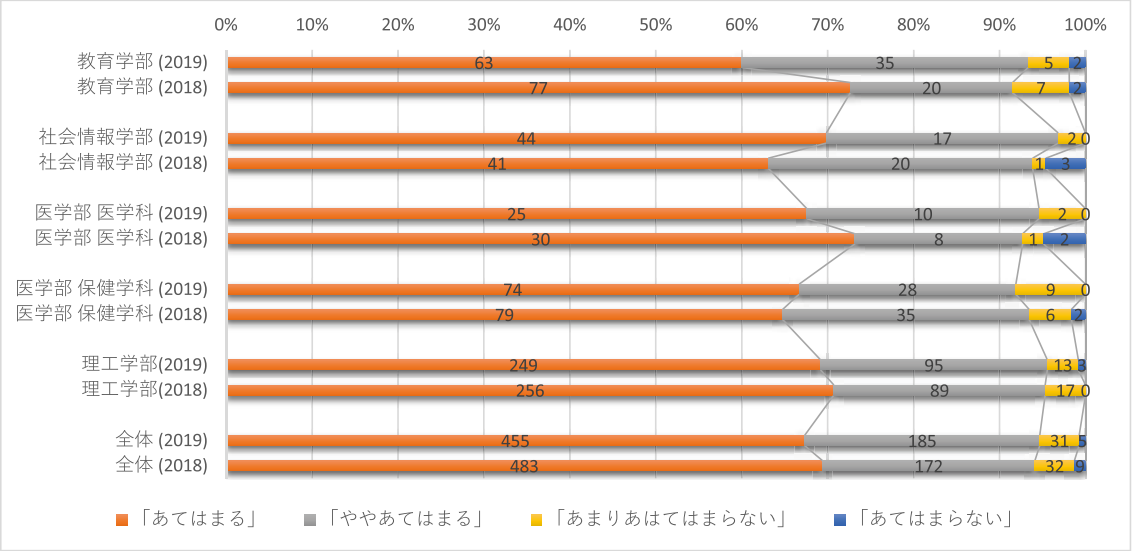
質問　7. 希望した科目を選ぶことができた。



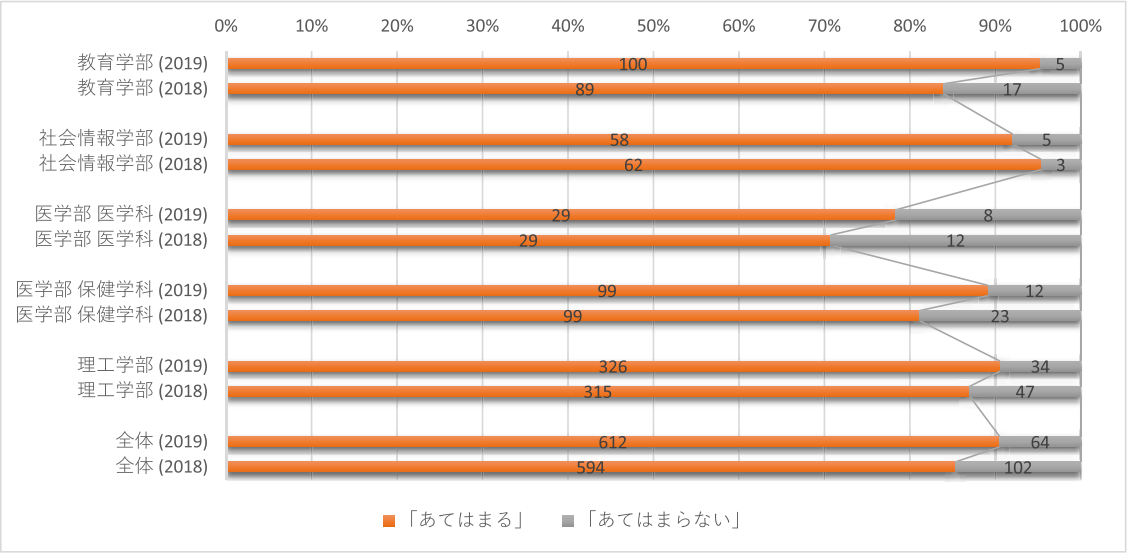
質問　8. クラスの人数は適切であった。



質問9. 教室の環境は適切であった。



質問10. この授業は教員による一方向的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。



【 自由記載 】

質問１．学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

HTML・CSSの知識を十分に深めず(演習をあまりやらず）にグループでのWebページ作成に至ったのは，ちょっと心許ない部分があった。
いかに真剣に予習したかがものを言う内容だったので、不十分な回は大変だったが、読み込んだ回は興味深く面白いと感じた。オリジナルの解釈が許されるのも楽しかった。
いつも何気なく見ていた数独に対する見方が変わった
おもしろかったです。
これは仕方がないことではあるが、翻訳する論文が専門的すぎるため、聞いている方も発表している方も理解しきれない部分が出てしまう。
とても興味深く、新しい考え方を得ることができた。
パソコン技術について学ぶことができた
パワポ発表をもっとフィードバックして生かす機会が欲しかった。
ホログラフィーの授業が最も関心が持てました。今後は自分で書籍を探して知識を深めていきたいです。
もう少し知識がない人でもわかるくらい身近というテーマに沿って欲しかった。
もっと説明が欲しい
やや専門的な内容も含まれていた。
リアクションペーパーで寄せられた質問に答える時間があったのが良かったと思います。他の人が気になった事について自分も知ることができました。
リアペの返答はいつも興味深かったです。
医学が身近なものだと感じられた
一般教養ではなかなか学ぶことのない内容で、いつもと違う雰囲気を楽しみながら学ぶことができた。
一部物理未受講であるため最初は心配していたが問題なかった
各回担当の先生が変わった為に一概には言えませんが、専門用語が多すぎて理解が難しい講義がありました。しかし、全体的に考えると、どの講義も興味深いものでした。
学生にとって身近な話題を扱っていた。
楽しかった
宮沢賢治を大まかにではあるが、知ることができた。宮沢賢治に対して関心が深まった
教科書もカラーで分かりやすかった。
元素記号のプレゼンでは準備をするのは大変でしたが、本やインターネットで知識を増やすことができました。 実験では丁寧に方法を説明していただけたのでスムーズに行うことができました。
後半の内容は難しかったが、興味深い話だと思いました。
講義者は配慮しているが、受講者のレベルが合っているとは限らない
高校で生物をとってなかったが分かりやすく説明してもらい理解することができた。
高校生までに習った日本史と古典がどうしてしそうだったのか、という理由を理解して勉強できる講義であった。
私は医学部であるため、少しの生物学的な知識はもっていた。今回の講義では、習ってきた知識の復習だけでなく、発展的な内容が多くありとても有意義な時間でした。有難うございました!

自分の学部には関係ないことであったが、役に立った
自分はもともとあまり関わったことのない分野だったため、正直かなり大変でした。 そのため、自分の力量がわかったいなく、コンテナの開発の目標を立てる時点で、大きく見誤ってしまいました
初心者で、最初はなかなかコツがつかめなかったが、やっていくうちにだんだんとわかるようになり、習字の上達につながった。
書くだけでなく、書道の歴史や作品などについてもしっかり学ぶことができました。
少し生物の専門的な内容が多かったように感じた。解説してくれる時もあったが、そのまま進んでしまった時もあって、生物を履修していない人にとっては授業を聞いて理解するのが難しいことがまれにあった。
心理学にもともと興味があったし、その中でも第二言語学者による心理学は、他の留学生の生徒と話す機会が多くありとても勉強になった。
生徒主体での授業でとても楽しかった。
生徒無視の授業でした
生物を履修している人にとっては知っていることが多かった
専門的な医学、化学、生物の知識が出てくることがあり、そういった科目を十分履修していなくとも楽しいと私は感じたが、十分履修している人の方がより楽しめる授業であると思った
太陽光発電について新たに理解出来る点があった
普段見ないような映像を見ることができた。
文系の人は分かるのだろうが、文学作品や歴史についての知識があるものとされると分からない・分かりづらいところが多々あった。
勉強になる話が多かった。だが、前期の障害児教育専攻がとっている授業と内容が被っている部分もあったので、今後はそのようなことがないよう、改善してほしい。
毎回のテーマと発表のテーマは非常に面白い!
毎時間の教科書内容の復習があったことで、期末試験の勉強がしやすく、試験当日も焦ることなく解答することができた。
未経験者は少し難しいのではないかと感じた。
滅多に触れる機会のない映像が見られて良かった。人生のなかで見ておくべき題材が多くあるように思われた。
面白かった。
面白かったと思う。色々なことが学べるようになった。
様々なジャンルの講義を受けることができ、知識や興味の幅が広がりました。
様々な昔の書を分かりやすく学べて良かった。
理解度に関して、テキストエディタやウェブブラウザの知識がある人とない人での差が出ていて、いまひとつ理解できていない人がついていくのが大変そうだった。
理系学生として数学が社会においてどのように活用されているのかという例を挙げ、面白い授業だった
留学生もいる中で偏り過ぎずしかし、日本人にもわかりやすく説明をされていてとても分かりやすかったです。

質問２．シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。
あてはまる

オムニバス形式の授業は毎回異なることを学べるので興味深かった。
シラバスとちがうけど、とても面白かったです。
シラバスにmoodle課題の記述がなかったように思う
シラバスはあまり目を通す機会はなかったが、初回の授業方針に沿ったものだった。
シラバス内に、昆虫は毎回提出し、返却されないという旨の記述があると良いと思いました。
ノートテイクを少しでもいいからやってほしかった。
各回担当の先生がトピックに関わる話をシラバスにのっとって行って下さいました。
計画的な授業だ!
使用しない教材を教科書の欄に記載しないでほしいです。
紙のほうのシラバスにはグループワークのことについて書いてなかったので、Webのやつと違ってどっちが正しいのかわからなかった
資料が分かりやすかった。
時間内に終わらないことが多かった
少しゆっくりだった。
成績の評価方法など明確に記載されていたためとてもよかった。
本当にその通りに進みました。
楷書から草書まで順を追って進めていたので、徐々に技術を身につけることができました。

質問３．教室での討論は活発であった。
１人１問、教科書の内容に関する質問に解答していく時間があったことが良かったと思う。
noodle上で他の生徒の意見を考慮して更なるまとめを記入する必要があったため、教室内では討論はしなくても良いと思った。
あまり討論形式の授業は行われなかった。
グループで話し合い、意見を交換できた
グループワークでコミュニケーション力を鍛えられたと思う。
グループ活動では討論できた。
ここまで話し合う授業だとは最初思っていなかったし、初めは英語で話し合うことが難しかった。しかし、徐々に慣れていき、活発に話し合いに参加できるようになったと思う。とてもよかった。
コンテナの開発の際、互いに出たエラー、見つけた新たなwebページなどを共有し、活発に活動していました。
プレゼンでのペアワークや実験でのグループワークで授業を楽しみながら実験の考察を考えたり、プレゼンを行うことができました。
ペアで話し合う機会が多かったので、グループで話し合うよりも活発に話し合いができました。
みんなが時間いっぱい興味を持続させながら話し合うことが出来ていたように思う。
みんなの発言が、他の授業より活発だった
よく喋ってた
意見が活発に交わされる時もあれば、そうでない時もあった。
意見してくれない人もいた
皆がそれぞれ意見を持って発言していた。
各発表者に対して質疑応答の時間があったので、意見の交換も活発で良かったと思う

学生からの質問が少ない
学生間での意見交換の機会をもう少し設けても良いのではないでしょうか
活発なところもあれば、なかなか話し合いが進まないところもあった。だが、自分たちですることを決めて取り組もうという気持ちはあったので、なんとかして発表までに準備することができた。
教室ではなく、moodle上での討論が活発だったように感じる。
激論が交わされたのはおもしろかった。
授業中の発言が出席になる時だけ活発でした。
書くことが多かったので、討論はあまりなかったかなと思います。
書道は各自で取り組むものなので、仕方がないと思う。
少し話しづらい雰囲気だった。
全体に向けて発表する場面はなかった。
討論があった講義の中では意見交換を活発に行うことができました。
討論する機会はあまりなかったが自分たちの意見を先生が紹介するように授業が行われていた
討論する機会はありませんでしたが、他の人の意見が紹介されることは多々あったので自分では考えつかなかったことを知ることができました。
討論は行われなかった
討論をする機会が少なかったと思います。
同じ学部で固まって座ることが多く思ったようには他学部とコミュニケーションを取れていなかったように思う
内容が難しい講義の時は、課題を見つけるのに議論が滞ることがありました。
日本人の学生たちと交流する機会が多い!
話し合いの場面がたくさん設けられていたのでとても話しやすかった。
楷書や書いた人を覚えるのが大変でした。

質問４．教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。
明確なグループ分け等がなかった分、話しづらいと感じることはあった。
「なぜ」という疑問や問に対して、生徒間で話し合う機会がたくさんあったと思われる。
グループアクティビティが多いので楽しい。
グループでサイトを作るという戦略はいいと思う。
グループの皆で話し合って発言していた。
グループワークが楽しかった
グループ活動とても楽しかったです。
グループ編成が良かったです。
たくさんの国の学生と話をすることができ、また話したことのない日本人学生とも知り合えて、輪がひろがりました。
ちゃんとした話し合いがあった
どうすればいい体験活動になるか考えてpcテイクした。
プレゼンテーションを通して、他の学部の子と仲良くなれた。
レポートの書き方などの指導をしてもらった
楽しく交流することができる!
基本は個人で行うものですが、同じ机の人と顔見知り程度にはなれました。

基本的にはずっと同じ班で、同じことをやっていたので、コミュニケーションはずっととっていました。
机が、同じ学部、学科にできるだけならないようになっていて、他の学部の学生ともたくさん話せて良かった
教員とのコミュニケーションは質問に答える程度であまり機会がなかった為に取りずらかったです。しかし、学生同士は討論の中でコミュニケーションを取ることができたと思います。
教授にわからない部分を質問したら丁寧に教えてくれた
座席指定だったことで、少しずつではあったが他学部の人と話すことができた。
作品の添削は書写をする上で、ためになった。
自由に意見を言えるような空気があったのでコミュニケーションも盛んだったと思う
質疑応答の時間が十分に取られていたと思う。個人的にはもっと先生の考えを聞く時間が欲しかった。
実験や授業内容でわからなかったことを質問したときに丁寧に解説していただきうれしかったです。
書くことが多かったので、コミュニケーションは添削の時のみだったかと思います。
生徒に質問を投げかけてくる先生と、そうでない先生がいた。
席が自由席であったため教団から遠い席に座る生徒が多く、会話があまりできなかった。
先生と発表する学生の個別授業のように感じた
先生方が積極的に生徒へレスポンスを求めていた。
他の学生とのコミュニケーションは多く取れた。
添削の際にコミュニケーションを取ることができた
同じ班員と仲を深めることができて良かった。
非常に多くて楽しかった。
毎回の授業で必ず他の生徒や先生と話す機会があり、素晴らしかった。

質問５．この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。
実験レポートを書く機会が多かったため、そうでないレポートを書けて、また、その書き方を学べてよかったと思う。
あまり報告の機会、レポートを書く機会がなかったので習得は難しかったと思います。
でもこのままの授業がとても好きです！
とてもやりやすかった
プレゼンの練習になった
リアペはいつも難しかったです。
レポートの機会はなかったため
レポートの提出回数が適切だった。
外国人に対してのわかりやすいつたえ方だけでなく、プレゼンテーションの時にも必要な技術を習えて良かったです。
学びのリテラシー１に引き続き、必要なことを学べたと思う。
期末課題の提示の際、丁寧に教えてくれた。
研究発表の仕方の基本を学べたと思います。
行っていない。
自分の意見を全体に発表する機会が多く、よい経験ができた。

自分の字について、見つめ直すことが出来た。文字を丁寧に書こうと意識するようになったし、正しい書き順なども学べた。とても自分のためになった。
先生が詳しく説明してくれました。
特にそういうのはなかった
報告と言うよりも、プレゼンの仕方の方が習得できたと思います。
報告やレポートはありませんでしたが、基礎となる文字の綺麗さを身につけることができたと思います。
毎回の感動が書いた。

質問６．出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。
なぜそのような評価になったのか、きちんと説明があったのが良かった。やや挑戦的な内容の発表にも一定の評価をして頂いた。
レポート課題を出すという話をもう少し早めにして欲しかった。
各回で出欠を取ったり、出欠カードの提出、ミニテストを行うことによりしっかりと管理されていました。
基準は明らかでわかりやすい。
期末テスト、書いた紙の提出があったことが良かった。提出することで自分の字を見てもらうことができ、上手くなろうと思うようになった。
作品ごとに評価をつけていただいたことがありがたかったです。参考になりました。
出席をとる先生と取らない先生がいたのはなぜか疑問です。
成績評価の基準がよく分からなかった。
提出課題や試験があったので、成績評価の基準はわかりやすかったように思う。
毎回書道提出なため、出席率は良くなると思った。
名前を間違えていた事があったので、しっかり出席点がついてるのか心配になることがあった。

質問７．希望した科目を選ぶことができた。
いろいろ勉強になりました。
この授業が第1志望でした。
どのように希望を決めているのか知りたい。本気で第一を希望している人と、何となく選んだ人とがいると思うがやる気のある人を優先すべき。それががわかるよう一言書く部分を加えてほしい。
やりたい科目だと思っていたが意外と難しかった。
私自身は第一希望の科目選択ができた為良かったです。しかし、周りには第5希望である学生もいてつまらなそうに講義を聞いていたりしたのが気になりました。
字がうまくなくて少しでもうまくなれたら嬉しいと思い、この授業を取りました。うまくなったかは実感がありませんが、字を書くときに意識するようになりました。
第1希望の科目でした。
第一希望でした。
第一希望なので良かった。
第一希望の授業を受けることができました。
第一志望だった。

第二希望までにはなれるだろうと思ってたので、第三以降はあまり考えていなかった。第一希望が通る人とそうでない人とどのような基準で選んでるのかが疑問。

質問８．クラスの人数は適切であった。
クラスの人数が他の授業に比べて少なかったので、一人一人に発言する機会があり、いろんな人の意見を聞くことができた。
ちょうどいいと思った。
ほぼ全員と関わることが出来たのが良かったです。
もう少し人数が多くてもよいと思った。
もう少し多くてもいいと思う
高校の時は多すぎて机が足らない・狭い等の問題があったので、大学では快適に感じられました。
今の人数(11人)よりも多くなってしまうと話し合いをするときなどに意見がよりまとめにくくなると思うので、ちょうどよい人数だった。
少ない人数だったのでスムーズに進んでいたと思う。
少ない人数の方が、集中できる。
少なかったので、先生の目がよく届いていました。
少人数だったため自分の意見が言いやすかったです。
少人数で、毎回、先生に添削をしてもらえたので良かった。
少数で先生の指導も受けやすかったし一人一人しっかりみてもらえてよかったと思いました。
人数が少なく、落ち着いた雰囲気で取り組むことができた。
席がたりてた？よくわかんない
多すぎず、討論も4～5人グループと行いやすかったです。
多すぎても良くないと思うので、今の人数がぴったりだと思います。

質問９．教室の環境は適切であった。
グループ活動がしやすかった。
せまかった
どうしようもないことはわかっていますがとても寒かったです。
パワポ発表が少し狭く感じた。
ブルーレイ・ディスクが読み込まなかった。
もう少し広い教室が良いと思いました。 一つの机に3人が並ぶと狭く、文字を書くときに相手へ当たらないかといったことを気にしなくてはいけないのが困りました。
もう少し暖房を効かせてほしい。
寒かった
寒かったです。
寒かったです。水道も使えない場所が増え、洗うのに混雑した状況もありました。
机は広く快適でしたが、寒かったです。
教室が狭い
教室の席数が少なくて、どの席に座ればいいか毎回少し困った。
教務システムにうまく接続されないことがあった。

極寒だった。
少し寒かった
暖房を入れてもなかなか暖かくならない。
適宜暖房の温度調整をして下さいました。
冬場が寒すぎた。
発言しやすい環境だった。
部屋が寒かった。

質問10．この授業は教員による一方向的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。
アクティブラーニングの要素は少なかったかなと思います。
このままがいいです！
スライドを使った発表があることで、自分で調べて知識を深めることが出来たし、情報をまとめる力やスライドの作り方、話し方などたくさんのことが学べて良かったです。
ディスカッションしやすい環境で嬉しかったです。
一方的な講義が多かった。最後の4回くらいはグループワークで、能動的な学びとなった。
皆で意見を出し合っていた。
各自が満足するまで字を書くことのできる環境だった。
自分が学んだことを人にわかりやすく説明することは大変だなと改めて思いました。
実際に作品を見ることが多くて良かったと思う。
書道の実践的な部分が多く、良かったと思う
適宜ディスカッションを取り入れていただけた為、自分の考えを持って発表できる良い講義でした。
当てはまるが1部教授によるものである
本当に、後半はアクティブな事しかしていなかった気がします
留学生との話し合いがたくさんあって、とても有意義な講義だった。

質問11．学びのリテラシー（2）に関して，気付いた点，改善すべき点等を自由に書いてください。
第一希望がよかった～
800円と2000円の筆を書き比べてみたところ、筆はやはり2000円以上のものが望ましいと気づきました。
moodle上でのディスカッション やりにくかったです。できれば授業中に、直接ディスカッションできる時間が欲しかった。そして、授業中にレポートを書く意味はずっとわからなかったです。
いろんな人の意見を聞いたり、自分の意見を言う機会が多くありよかった。
エクセルのやり方よりも、データ解析自体の勉強もしたかった。
オムニバスなのであれば、先生によって違う講義を受けたかった。毎週同じようなことばかり話されて飽きてしまった。
グループワークが基本だったのでわからない点を教え合える良いものだったと思う

このアンケートで意見を書ける文字数が少ないです。
できる人に任せっきりというのは少し後味が悪かったので今度は自分で手を動かしてスキルを磨きたい。
テストが何が出るかよく分からなかった
とてもいい講義で、受講してよかったと心から思った。
とても楽しく、学ぶことも多い授業でした。
とても興味深い授業でした。教育現場にも活用させていただきます。ありがとうございました。
とても面白く、今後役に立つ内容だった。
パワポの作り方のコツなどをもう少し知りたい
ひとつひとつの話で詳しい解説があり理解しやすかった。
プレゼンテーションで与えられたテーマについて何を重点的に調べたら良いか、もう少し具体的な指示があると発表の内容がよりよいものになったと思います。
プレゼンは役に立つと思う。
ほぼ毎週違う先生に講義してもらえたのが良かった。いろんな面から生命と心について考えることができた。
やる気のある人が選択希望の科目から漏れて、楽をしたい人がその選択希望の科目を受講するのはおかしいと思うため、改善した方が良いと考える。
意見を聞いて考えることや発言することの大切さを学んだ。
医療についての内容がほとんどだったのに対し、医学部生が少なかったことは驚きでした。
音の解析ソフトの使い方がよくわからなかった
音楽という芸術分野と音の波という物理分野の組み合わせだったので学習するのにはどっちつかずになってしまい難しいのではないかと思いました。
音楽教育に対しての考えが深められる授業でした。ありがとうございました。
仮履修期間が有れば、より自分の興味関心にあった科目を選べたと思う。
科目選択において抽選とは言え、少なくとも第3希望までにとどめておいた方が良いと思います。講義中興味がなく寝ている人がいたりして周りの学生や教員が不愉快になっているように感じました。
改善すべき点は、特にないです。
学部それぞれの見解や意見を聞け、ためになる楽しいプレゼンでした。 ありがとうございました。
健康的な生活について学ぶことができ、これからの人生で役立つ知識をたくさん身につけることができた。
講義のタイトル通り、日本語とは何かについて学ぶことが出来たと思います。
今後何かの発表をする際には事前に情報保障について考えて実行していきたいと思った。
今年で終わってしまうのが残念です。雑談とか体験チックな話が多かったと思います。あまり授業っぽくなくて私はすきでした。
細菌や寄生虫など、微生物を幅広く学べたのでとても楽しかったです。また、先生方の発表の仕方なども勉強になりました。ありがとうございました。
自分が今までできてなかった事を学習できたことは良いことだと思った。
自分が第一希望に選んでいた授業にに抽選漏れしたのに関わらず、他の第二希望で申し込んだ者が抽選に合格していた可能性がある。抽選の際、希望順位は考慮されているのでしょうか。

自分の興味のある分野の講義をとれているので非常におもしろい授業だった。 席が決まりきっているため、他の学部の人でももう少しいろんな人と意見交換できるとさらにいいと思った。
自分の専門と近いもの、と思って取ったが、内容が前期とかぶっていたのでそうじゃなくてもいいなと感じたことがあった。グループで調べ学習をし、それを発表できるように準備するということは、とても勉強になった。
自分の知らなかったことをたくさん学べて良かった。
実験考察が難しい実験がいくつかあったので、ヒントなどが欲しかった。
主に光学の分野は、高校物理では教科書にかいてあるからという理由で試験のために表面的な知識の詰め込みになってしまったが実験を通じてその知識に色がついたように感じた.
授業ごとに内容がしっかりしていてよかったと思ったが講義内容のプリントを配る人と配らない人でバラバラだったので統一するといいと思った。
授業外でやることが多かったのでもう少し減ったらありがたい
小筆を使うような作品にも挑戦してみたいです。
少し、題名と講義の内容が合っていない気がした。
少数人数での授業で1人の活動スペースも広くのびのび活動できました。小学生以来に筆を使い懐かしさと成長したかなとも感じられました。冬休みの課題が多かったが、楽しく活動できました。
色々な人のプレゼンを聴けたこと、プレゼンなどの発表の聞く(質問をする)ことで学びが深まりました。
人とコミュニケーションをとる機会が多くてよかった。
人前で発表することが慣れてなかったが、良い経験ができた。
数学を英語で学ぶという、新しい観点から、授業が出来て楽しかったです。 高校時代、英語は好きで得意でしたが、改めて英語の楽しさに気づけました
生きていくうえで役に立ちそうなことがたくさん学べたし、幅広い分野のことを取り扱った内容だったため、新しく知ることもたくさんあった。
生徒が主体的に考えて授業を行うことができた。毎回の実験結果から、次の授業ではどうしたらいいのか、どんな条件にしたらいいのか、というのを話し合って考えながら行えた。
生徒に対して、何が必要なのか、そのカギとなることを毎度提示してもらえたことが良かった。
先生の研究室に興味を持った。
先生の授業がとても好きでした。 また、機会があれば受講したいし、教育についてより一層興味を持つことができました。
先生の話の内容がまとまっていなかったので何を話しているのか理解に苦しんだ。またその内容も他学部に配慮することなく、音楽専攻にしか理解できない内容でとても教養科目とは思えない授業であった。改善を求める。
他の課目とは異なっていて、良い授業形態だと思いました。
他の学科学部の人と関わる重要な機会であり、多くの様々な意見が得られ新鮮だった。
他学部との交流ができて、よかった
他学部の人と交流出来て楽しかったです。
体験版みたいなことができたらよかった

大学で書道を学べることができうれしく思います。今までやってきた書道の授業より詳しく書道について知ることができ良かったです。今まで書いたことのない字体を習うことができて、良かったです。
大変有意義な講義であった。
第3希望ながら自身の希望したものになったのはよかったが、もう少し選択肢を増やして欲しいと思った。
知らない人とPowerPointを作って発表できたのは、コミュニケーション能力を高めるきっかけとなった。
半年間ありがとうございました。
半年間お世話になりました、ありがとうございました。
非常に勉強になった。先生もとても優しい。
普段、パソコンやスマホを使うことが多い中、筆や鉛筆での手書きの文字を書くことができたのは良い機会だったなと思います。
普段見逃していることに気づく新たなきっかけの場となった。他専攻の人の書くレポートに目を通すことができ自分のレポートを客観的に見る視点を覚えた。
部屋が寒かった
面白かったです。 ありがとうございました。
様々な分野の映像を見て、要約技術を身に付けることができたので良かった。
歴史に触れてその時代ごとの特徴を教科書を見て読んで実際に書いて学ぶことが出来てよかった。スマホやPCの時代だけどこれからは字を書くことを意識したい。
論文の翻訳を始める前に、後期期間内に翻訳と発表が完結できる文量であるか確認した方が良いと感じた。
話し合いや発表などが沢山あり、これからのプレゼンテーションに役に立つと思いました！ありがとうございます。

資料３

令和元年度　前期授業評価「情報」集計表

※保健学科は後期開講のため未実施

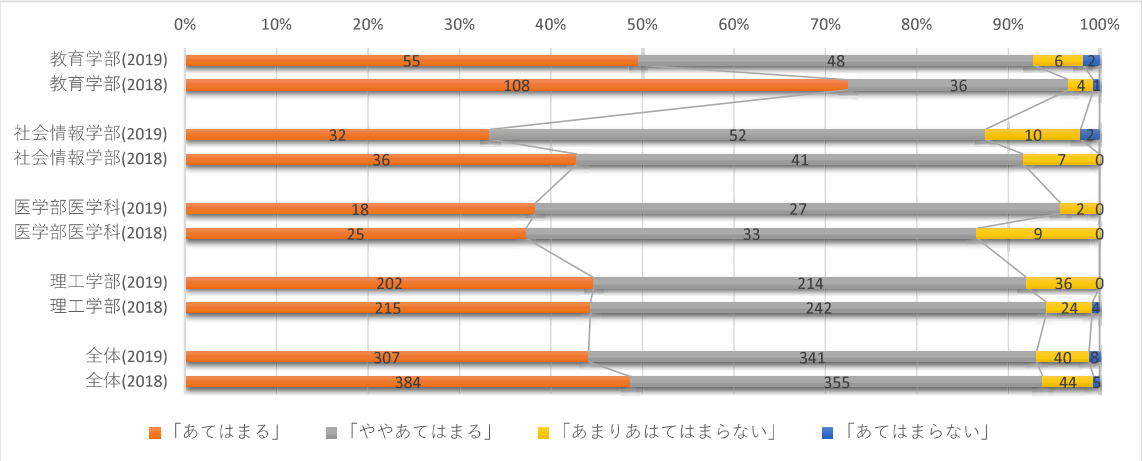
区　分	対象者数	提出者数	回収率（%）
教育学部	241 (244)	112 (152)	46.5 (62.3)
社会情報学部	105 (103)	96 (84)	91.4 (81.6)
医学部医学科	107 (105)	47 (67)	43.9 (63.8)
医学部保健学科	― (159)	― (188)	― (74.2)
理工学部	542 (536)	439 (485)	81.0 (90.5)
合　計	995 (1,147)	694 (976)	69.7 (85.1)

※（　）は昨年度の結果

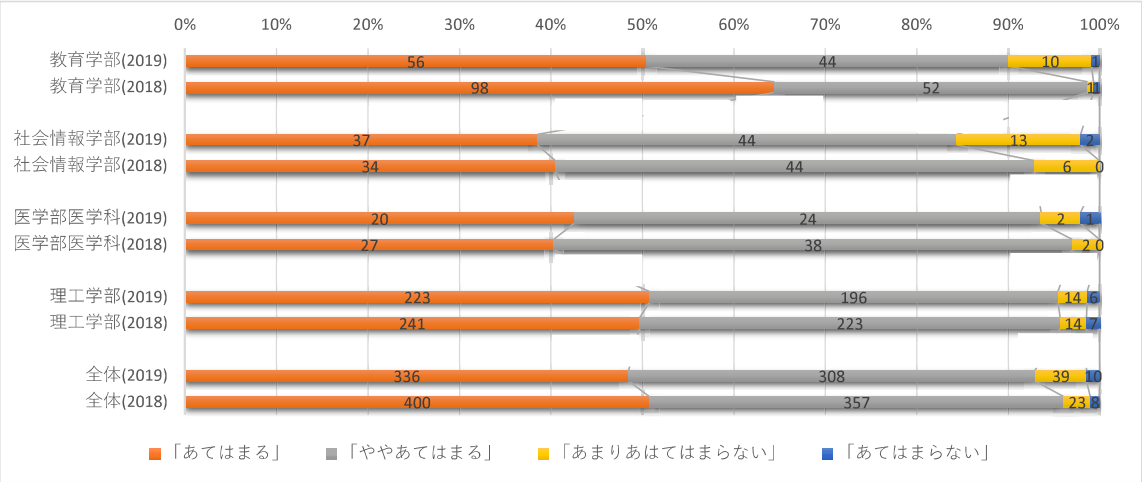
※評価基準　1「あてはまる」2「ややあてはまる」3「あまりあてはまらない」4「あてはまらない」（以下　同様）

あなたが本年度受講した「情報」の授業についてお尋ねします。

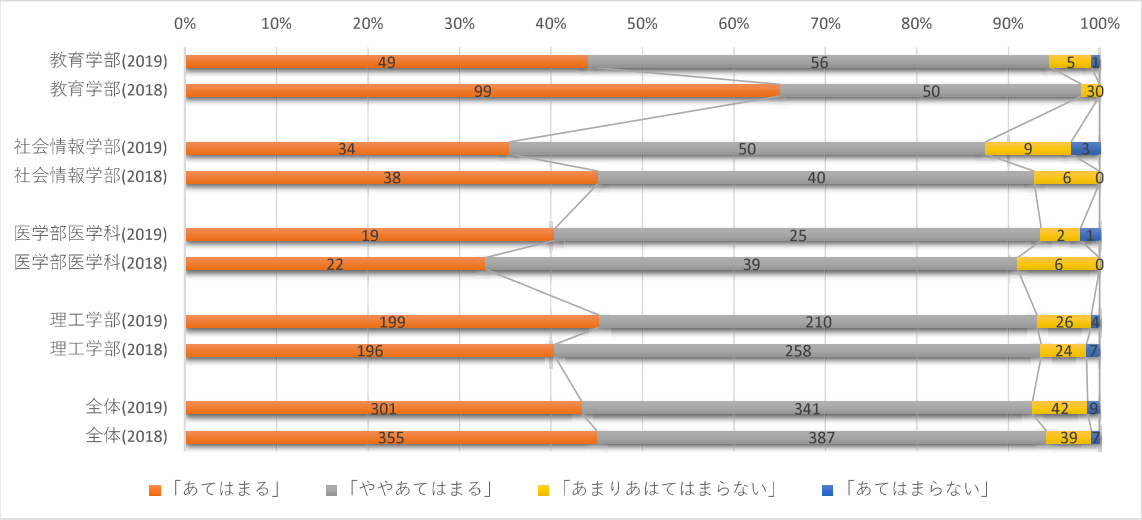
質問　１．コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。



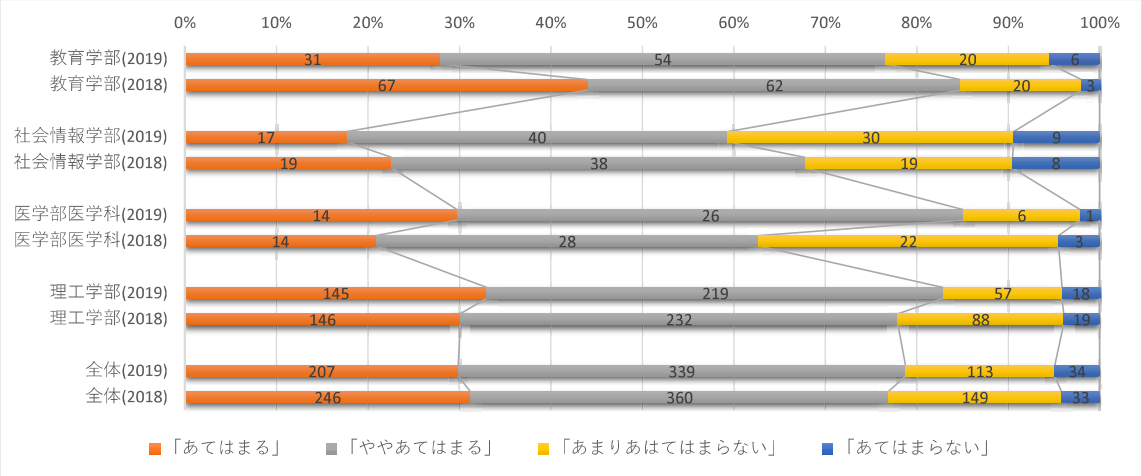
質問　２．コンピュータの活用能力を高めることができた。



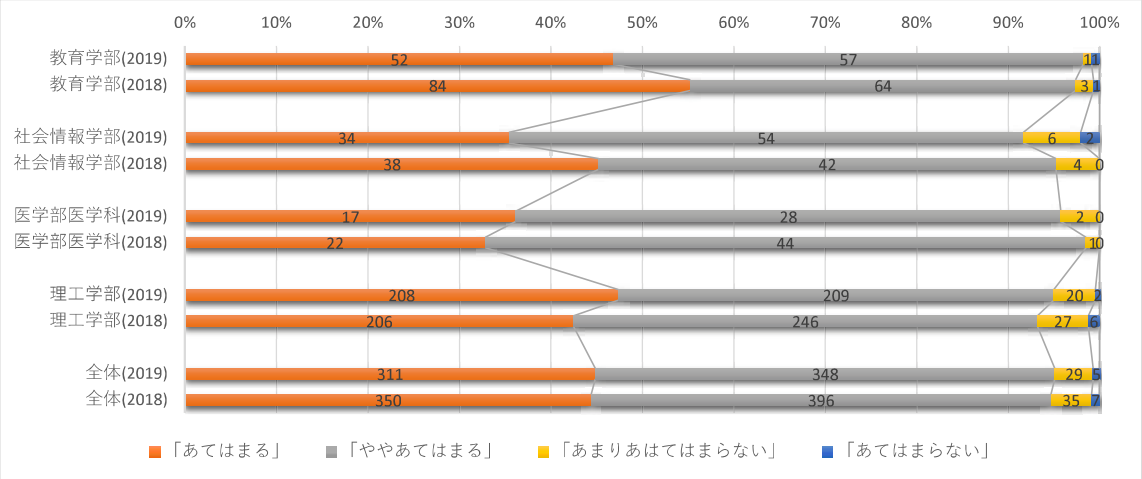
質問　３．情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。



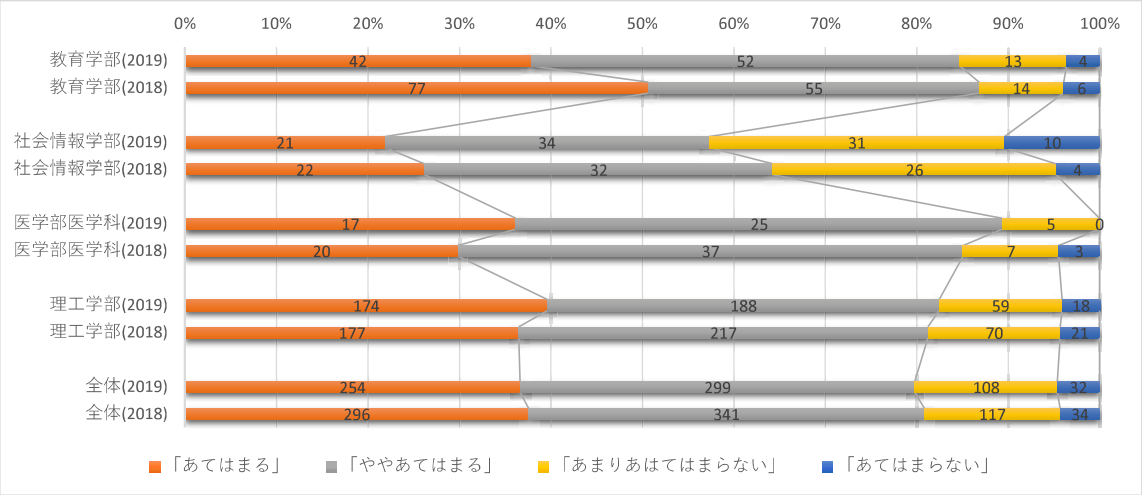
質問　４．学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。



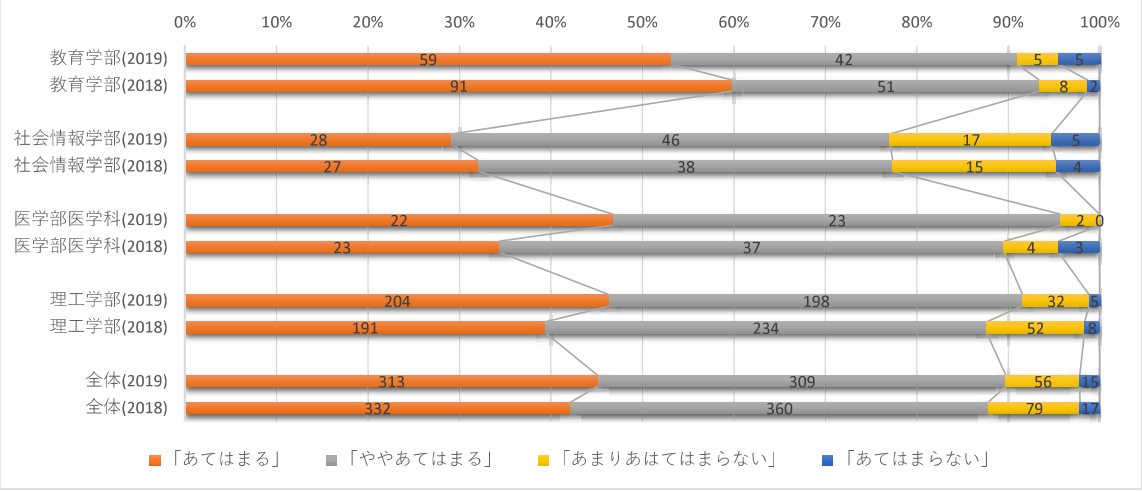
質問　５．シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。



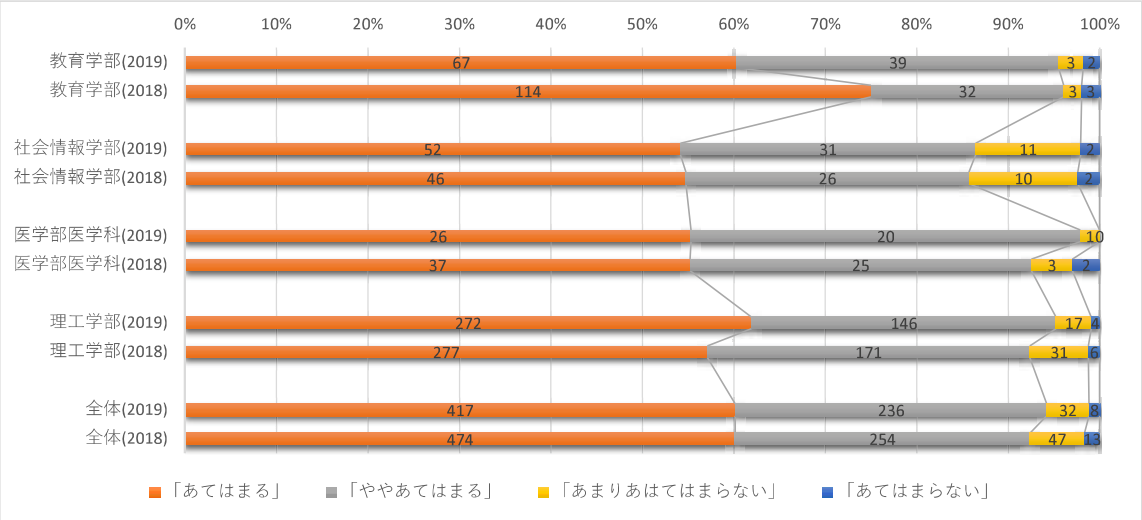
質問　６．教員やTAの考え方は、よく配慮されており適切なものであった。



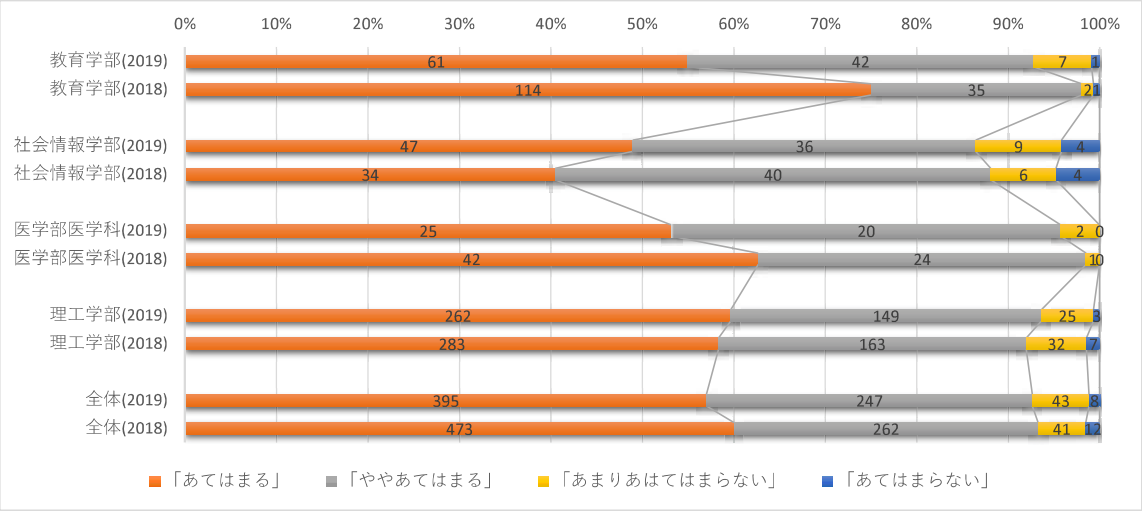
質問　７．出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。



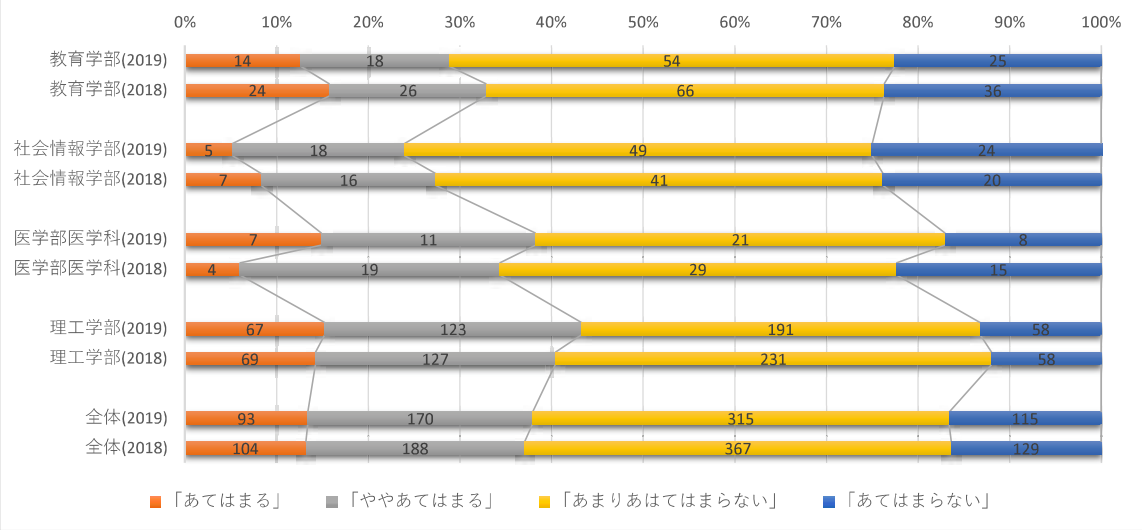
質問　８．クラスの人数は適切であった。



質問　９．教室の環境は適切であった。



質問　１０．もっと高度な内容を学びたかった。



情報の授業に関して，気付いた点，改善すべき点等を自由に書いてください。

質問1．コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。

とてもわかりやすい授業でした。
知識はもちもんですが、話の所々に雑談を挟むスタイルがとても楽しかったです。
コンピューターについて知らないことが多かったが、すこし理解が深められたと思う
今後の論文や実験、研究に使える知識を得ることが出来よかった。
コンピュータの構築の仕組みについて知ることができた。
Word,PowerPoint,Excelについて詳しく学ぶことが出来た。
WordやExcelやPowerPointの便利な使用方法を学ぶことが出来て良かったです。
ワードやエクセルの知識を取り入れることが出来た
自学自習に努めて必要知識を補完していきたい。コンピューターの構造を知ることに嫌悪感は抱かない。
インターネットのを勉強していらい、このシステムをつくったひとびとがとてもすごいとおもいます。
座学、実習共に基礎知識を得ることが出来た
すでに習得していた
高校の時にほぼ履修済みの内容
既知知識ばかり教えられたので、成長が感じられなかった。
当たり前のことすぎでは？
難しかった
講義についてはとても勉強になった。しかし専門的な語も多く難しかった。
演習を説明と実践を同時進行しないとパソコンが苦手な人には全然分からない。
講義の内容が非常に高度なもので難しかった。
Excelが難しかったので、もう少しゆっくりやって頂きたいです。
そもそもどのレベルが「基礎知識」なのか不明確である
基礎知識とは何を指しているのかわからない
説明はわかりにくい点も多かったので自分たちでも考えられる授業展開にして欲しかった
ただつらつらと細かいスライドを見せられてもよく分からない
一定の店舗で話されても頭に入ってきません
説明されても、意味がわからない。用語を知っている前提で話されてもわからない。とにかくわからない。
個人的にインターネットに疎いのでもう少し、専門用語の詳細説明をしていただけるとより良かったです。
授業スピードが早かったです。
説明が早すぎる
実技の時間が短すぎて急ぎ足のなっていた
説明が早すぎて、ついていくのが大変でした。
初めて学ぶことだったのでもう少し丁寧に説明してほしかった。
講義の方では、とても退屈で、得るものは少なく、 この90分にお金を払っているのかと思うとかなり理不尽というか、中々意味のないものでありました。
タイピングテストは少し謎

質問2. コンピュータの活用能力を高めることができた。

いろいろな知識を得ることができました。
無知から多少は理解できた
コンピューターを今まで使う機会があまりなかったので良い機会になった。
パワポやエクセルなどの効率良い使い方がわかった。
レポートを書く際、情報の授業で教わったexcelやwordの使い方が役に立った。
パワーポイントについて知識がそこまでなかったので、講義で知識が増えた
レポートなどに応用して使えるようになった
宿題を通じて試行錯誤しながら、地道に技術を身に付けることができた。
特に実習時において高められた。
既知知識ばかりだった。
一般的な内容ばかり
演習については簡単すぎるのでレベル別にして欲しかったです。
進むのが早かったです。
実技の授業の進みが少し早いような気がしました。
授業の進行もはやく、今何をしているのかよくわかっていなかった。また、課題が多かった。
難しいし授業が早くてよくわからなかった。
パソコン実習授業は説明が早くわかりにくい。また、課題が他クラスと比べ多く重かったので不公平に感じた。
大学で初めて自分のパソコンを持ったので知識があまりなく、実技の時間において行かれてしまうことが時々あった。
演習によってコンピューターの使い方などが学べた。もう少しゆっくりやってほしいとも思った。
演習の授業のペースが早すぎる 細かく練習等をさせてもらえないため、授業で曖昧に片付けられる場合が多かった。
実技の授業の進みが早すぎて全然追い付けなかった。パソコンに慣れていない人にとってはきつすぎる。
実技に関しては、ある程度分かったいる前提の授業である印象を受けました。 正直、内容を全て理解できた回はありませんでした。
演習では、日本語的にも、かなり初心者に優しくない説明が為されていたと思います。 その上で詳しい説明も、生徒の進捗状況に対して講義を調節することもなかったので、かなり厳しいものでありました。
90分間喋りっぱなしでついていけない、なにを言ってるか分からない
活用方法などの具体例の提示などがあるとより良かったです。
最後にEXCELレポートの回答を提示して欲しかった。
コンピューターの操作は演習室で授業しながら、演習するほうがいいと思う。 wordやexcelの操作が細かいことが多いので、今回全部教えられても、 次回の演習のときは忘れたものが多い、間違いやすいと思う。
Excelやパワーポイント
PowerPointの演習の時間がもう少しあれば良かった。
もう少し巡回の人数を増やして欲しい
もっと演習を増やして欲しい
海外では小学校でやるレベルのことを大学生になってやることに驚きました。

質問3. 情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。

りんりん姫はいい教材
りんりん姫の内容が分かりやすく、学びやすかった。
座学やe-learningでくわしく知ることが出来た。
e-ラーニングによって学ぶことができた。
ネットリテラシーについて理解できた。
ネットは便利さの裏に危険さがあることが改めてわかった。
情報のセキュリティーやモラルについて学ぶことが出来て良かったです
情報社会で生きていく上で注意すべきことを改めて確認できた。
特に座学時に身につけられた。
ムードルを活用していてよかった
既知知識ばかりだった。
すでに知っていた
小学校から高校までの間で習ったことが、ほとんどでした。
時間的制限のため、あまり授業内で紹介がなかったので残念でした。 しかし、倫理姫でよく学ぶことができました。
自分たちで考える時間が授業内でほとんどなかった
復習の余地あり。
倫々姫はいいものでしたが、些か冗長でした。 倫々姫がかわいいイラストだったのはよかったです。もっと可愛くしたり絵を増やしてもいい と思います。

質問4. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

丁寧に教えてくださり、理解が出来ました。
IPアドレスなどで群馬大学に関するものを例としてあげて下さっていたので理解し易いと感じました。
座学、実習ともに初心者でもわかりやすい内容であった。
TAさん？がいてわからない人に一対一で教えてくれた
少し早く感じた
授業進度が少し早かった。
情報の実習の授業で先生の解説が速く、ついていけなかった。
進行度が早すぎる
実技でパソコンに慣れていない人がいる中で、進むスピードが速いと思う。 もう少し、できる人と苦手な人で分ければいいのではないかと思う
(演習時)授業中、私達が分からないことやできないことがあっても、 先生が考慮することなく授業を進めてしまうということが多くありました。
みんながはてなマークを浮かべている中、次々に進んでしまったのでみんな困っていた。
実技、講義の両方において、生徒との対話が少なく進度が早すぎるのではないかと疑問を抱くシーン があった。
一方的な授業だった。

講義が一方的に話すものだったためコミュニケーションをとりながらの授業がよかったです
皆が理解できてなさそうなものにもう少し時間を気にかけて欲しかった。
特に演習は理解していないが、とりあえずついていくのに精一杯で先生の画面のマネをしているだけであった。
まったく配慮は等はなされておりませんでした
もっと基本から教えて欲しかった
少し難しいと感じる回もあった。
実技は内容が全く頭に入らない。身に付かなかった。
座学の内容をもっと丁寧に説明してほしかった。
講義の内容が非常に高度かつ専門的なものだった。
講義時にmoodle へのスライド公開がなかった。
パワーポイントの課題は自分の好きなテーマにしたかった

質問5. シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。

教員の都合で連絡のない授業中止はやめてください
講義が短い割に、内容が多くスピードが少し早くて、追いつかない部分がありました。

質問6. 教員やTAの教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

親切だった
優しかった
質問に丁寧に対応してくれた。
優しく教えてくれて良かったです。
先生方の配慮が身をもって感じられるほどであった。
分からないところをすぐに教えてくれました。
分からない部分もしっかりと教えてくれた。
パソコン操作が分からない際、丁寧に教えていただけ、操作習得につながりました。
シラバス通りに進んでいた。
異議なし。
少し早かった。
少し説明が早くて追いつきにくかった。
進行スピードが速かった
先生の説明が早すぎだと感じました。
話すスピードが早く聞き取れない部分があった。
演習の授業が少し早くて説明を聞き逃してしまうことがあった。
演習の授業は説明が速すぎてついていけなかった。
演習の授業は張先生の説明が早いかつ何を言ってるのかわからない箇所が大変多かった
演習にて、私たちの反応を確認してはくれていたが、少し速かった。

演習の授業は進みが早いと思った。コンピューターは全体の進行状況を合わせてなければならないと分からなくなると思う。
授業の進行が非常に早く、ついていくのが大変だった。今の授業の速度で進めるなら、授業の資料をもっと詳しくしてほしい。
時間が無いのはわかるが、生徒の進行状況を無視して進めてしまうことがあったので、少し大変だった。
授業内容を終わらせることだけを考えていてできていない人はおいていかれる。
実技の時わからない生徒がたくさんいたのに講義を進めていた
実技の先生が教えるのが速い
スライドの移動が速い。
よくわからない部分があった
理解しづらかった。
特に演習が全く良く分からなかった。
実習の時はもっと詳しく教えて欲しかった
教員の話す日本語に少し引っ掛かりを感じ、話の内容を理解するのに苦労した。
聞き取りづらかった
日本人の先生がよかった
先生を変えて欲しい。しっかり日本語が話せる人、声が遠くまで届く人が良い。
パソコンの実習等で分からないところを訪ねると適切に教えてくれる教員と教えない教員がいた。
やる気のなさが目立った。

質問7. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

出席を厳しく取っており、よかったと思いました。
カウンターで人数を数えるという方法を始めて見た。出欠管理や成績評価方法が分かりやすかった。
人数を数えている姿が真剣で好感をもちました。
授業内で明確な説明があった。
異議なし。
講義の時に人数が少なかったと思うので出欠を取った方が良いと感じた
情報の講義では、明らかに欠席している人が多かったので出欠を取ってもいいと思いました。
演習各回では課題が与えられたので、それで評価されていると感じました。 しかし、講義の時間では出欠確認がされていなかったのが気になりました。
出欠管理はザルでした。講義の方では一度もとったことはなく、 演習の方では「Moodleに入っているか」で出席を決めていました。 どこに居ようとMoodleにログインすれば出席となるのはどうかと思われます。
出欠確認に執念を感じました。効率がいい確認方法があるといいなと思いました。
出欠のQRコードを読み取れない機種があった。
無断で講義を休んでいる人がかなりいた。
成績評価基準を知らない
わからない。
課題が多かった。

質問8. クラスの人数は適切であった。

多すぎず、少なすぎない人数であった。
4クラス区分で問題ないと思われる。
異議なし。
少し多い気がします。
もう少し少人数で行って欲しかった
わからない人の対処が行き届いてないので減らした方がいい
人数が多すぎる。
演習は少人数の方がいい。
もう少し少人数のほうがありがたかった。(実技のほう)
もう1人程度TAがいると、ありがたかったです。

質問9. 教室の環境は適切であった。

座学、実習ともに適所であった。
パソコンの使いやすさは問題なかった。
座学の教室は狭すぎると感じました。
照明が明るく、スライドが見にくい時があった。
冷房が寒い
少し部屋が寒かった。ただ先生が対応してくださったので問題はなかったです。
風通しがもっと良くなると嬉しい。

質問10. もっと高度な内容を学びたかった。

現状で満足。
基礎知識程度で良い。
現時点では、自分にとって適切なレベルであった。
高度な内容を教わっても覚えてられないと思うので、私は実生活で使う程度の内容が合っていると思う。
初めての知識が多く、私は授業の内容で十分だと感じた。
これ以上難しくしないで欲しい
基礎的な知識をもっと詳しく教えてほしいと感じた。
高校教育で学んでいた点が多かった
高校までで何度もやらされたofficeよりは、プログラミングを学び始めたかった。
プログラムくらいまで手を出してもらいたかった。高校でやった内容の復習だったので簡単すぎた
実技に関しては中高ですでに学んでいることばかりだったので、もっと別のを学びたかった。
今後の将来を見据え、より高度な授業も受けてみたい。

習得内容の応用の時間が無かったのが残念でした。 しかし、課題の選択課題では少し応用内容も含まれていたので、それに取り組むことで 少し応用技術を習得できたと思います。

質問11．その他、情報の授業に関して，気付いた点，改善すべき点等を自由に書いてください。

分かりやすかったです。
わかりやすかった
大変ためになりました。
初心者の私がよく成長できた授業でした。 講義ありがとうございました。
今のままで良いと思います。
質問に関して丁寧に対応して頂いたりしてスムーズに授業を進められた
パワーポイントの資料が事前に得ることができ、予習・復習がしやすかった。
パソコンが使えるようになってよかった。
パソコンの様々な機能を学べた。
パソコンの使い方はとてもためになった。
パソコンの使い方に慣れることができた。
丁寧な説明がありコンピューターの使い方を学ぶことができた。 また、座学でも知らない知識を学ぶことができ、良かった。
情報の詳しい事をしれて勉強になった。
将来役に立つことを知れました。
エクセル操作などができてよかった
Excelを教えてくれたのがとても良かった。
ExcelやWordの使い方を学ぶことができたので良かったです。
ワードの基礎を学び、実験レポートに役立ちました。
これからレポートなどで使うことになるWordやExcelやPowerPointを使いこなせるようになってよかったです
演習と講義が隔週であることによって、バランスが取れていたように感じました。 ExcelやWordなど、パソコン操作技術の習得ができ、さらにパソコンの構造などが学べる良い講義だった。
プログラミング、microsoft officeの使い方が役立った。
情報は慎重に扱わなければならないことがわかった。
情報モラルについて詳しく学習することが出来た。
進む速さがちょうどよかったです。
演習と講義を別々にする点が良かった。
課題はクイズ感覚で楽しめた
難しかったが、説明を聞いて理解できた。
理解するためには時間がかかったが、今後必要になる知識なのでもっと勉強したい
情報倫理を繰り返し学べる点や、Moodleで授業のプリントが見られる点から復習がしやすかった。 Word等の演習課題の期限も1週間と取り組みやすかった。
練習して技術を身に付けたい
先生の声が聞きづらく、速い

もう少し、ゆっくり教えて欲しかった
早くてついていけない時があった
授業速度が少し早かった
授業の進みが早すぎた。
授業の進め方が少し早い気がしました
授業の進行スピードが少しはやいように感じた
少し授業スピードが速かったので人によっては付いていけない場合もあると思いました。
少し授業が早いと感じた
先生の教え方が早すぎて意味わからなくなってしまう時がありました。 以上です。 ありがとうございました。
演習の授業が進むのが非常に早かった
演習の速度が少しだけ早かったです。
演習の方で、説明が早くて聞き取れない
演習の授業は、PC初心者には明らかにハードな内容だった。スピードが異常で説明も少なかった
演習のとき、教授の授業を進めるスピードが早いことが多々あり、授業への理解が追いつかなかった。
演習の先生が早口でよく聞き取れないことが多々あった。
演習の時間が若干進むのが早い
演習の授業はもう少し時間配分を考えたり、丁寧に教えていただけたら良かったです。
演習の時間では、やることが多くまた早くもあったためあまり身につくことができなかったと思う。
パソコンの演習は少しスピードが早かった。
エクセルの演習の授業は全くついていけなかった. もう少しゆっくり進めてほしいと感じた.
演習の授業についていくのに必死であった。置いていかれるともう追いつかないので、 とにかく理解してなくても真ん中のモニターのマネをするだけであった。
実習の進みが速かった
実習時のスピードがとても速かった。
実技の先生が進めるの早かった
実技は喋るのが早すぎて聞き取れなかった
EXCELWordの実習の時の説明が速すぎてついていけなかった
張先生の実習授業の解説がもう少しゆっくりにしてくれると聞き取りやすいと思う。
自分のパソコンが英語で設定されているから大学のコンピュータを使うときちょっと日本語の問題が 出てきた。特に時々先生の教え方がはやいと思います。
ワードやパワーポイントなどのツールを使えるになったが、 授業の進行が速く何度か遅れてしまったことがあったので、 もう少しゆっくりやって欲しいと思った。
パソコンを使う授業の時、説明が早くてついていけなかったので、もっと説明をゆっくりしてほしい。 宿題を無くしてほしい。
情報の演習でもう少し時間をとって頂きたい時がありました。
マイペースで出来る演習が必要だった。
演習がよくわからなかった。
シラバスやExcelのデータが去年のものだったりして分かりにくかった。
講義の内容がわかりにい場合があった。前提知識がなくても理解できるような配慮が欲しかった。

実技はもう少し分かりやすくなるよう改善されるといいなと思います。

身近には感じてなかったので、比較的授業が難しく感じた。

期末試験の難易度が高かったように感じる

講義の内容が非常に高度かつ専門的で理解が追いつかなかった。

PCの基本的なソフトの使い方の総復習と新たな使い方を学ぶことができて良かった。
座学では専門的な用語などが多く出てきて、難しいと感じることもあった。

専門用語が多いように思った

演習は全く知識のない人からしたらすこしわかりづらかったのではないかなと思った。
課題も他クラスは授業時間内で終わらせてもらってたので差がない方がいいと思った。

少し高度な内容もあり大変でした。バックグラウンドによって差が出やすい教科だと思いました。

パワーポイントからいきなりホームページを作るのはレベルが上がりすぎなのではないかなと思います。

演習の難易度はちょうどよいと思いましたが、座学の授業は難しく感じました。
タイピングの速さの重要性に気付くことができました。

内容が難しい点がいくつかあった。もう少しわかりやすくして欲しいです

「分かりますよね。」で済ませるのがとても気になった。
自分のようなできの悪い生徒にとっては、授業を受けるのが毎週苦痛だった。

情報のレポート課題について、成績の表示が分かりにくい、
間違いがあり、再提出を要求されても、どこに間違いがあるか分からない。
TAの方に聞いても、TAの方もうまく説明できない場合もありました。

授業の資料に課題についての記述が非常に少なく、課題をこなすのが非常に困難であった。

課題などで、なにが間違えているのかもっと、教えてほしかった。

課題の量が多すぎる。そればかりに時間を取られ、もっとやるべきことに手が回らない。

課題の提示の方法に著しい問題があるように感じた。
適当な課題の内容を提示していない上に、適切な採点基準がないなかで、不透明な採点が行われており、
非常に不快。

課題から読みとりにくい内容を普通に評価に入れてくるのはどうかと思う。

期末テストがどこの範囲が出るのかが分からなかった

講義の授業が何一つ抑揚のない内容であり、とても授業と言えるものではなかった。
もっと生徒の関心をあおるような教え方はできないのだろうか。

そのまま真似して作るだけだと飽きるので自分の好きなテーマでやりたかった

パソコンを使わない座学の授業の際に生徒側がただ講義を聞くだけという形になりがちなので、
生徒の自主的な思考を促す、または講義に緊張感を持たせるなどの必要性を感じました。

実技と講義を別にするなどして、生徒の進行状況に合わせた学習ができるとよいと思った。

講義も演習の時のパソコンの部屋でやったらよいと思う。
教えてくれる内容は目の前にあると、もっと集中できて覚えやすくなる。

クラスを番号順でA、Bに分けるとき今回はAが早めの授業だったので、次はBを早めの授業にしてほしい。

声が通りにくく指示がわからない時がたまにあった

教員は日本人にしてほしい

ダウンロードが遅いことが多かった

スライドをmoodleに早めにアップしてほしい。

授業にするまではしなくても良いが、OS Xバージョンの授業内容のデータなどがあったらよかった。

もう少し、出席をきちんと取って欲しかったです。

資料４

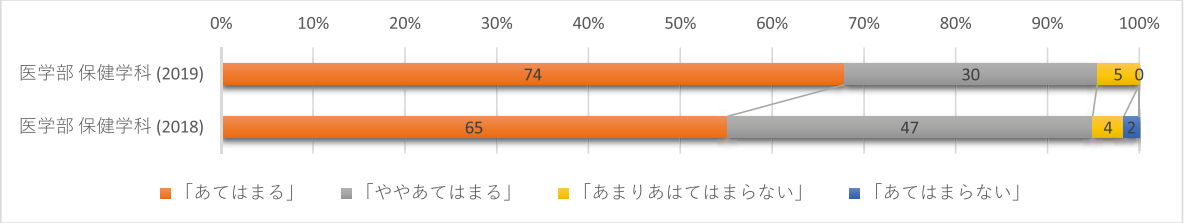
令和元年度　後期授業評価「情報」集計表

区　分	年度	対象者数	提出者数	回収率（%）
医学部保健学科	2019	163	109	66.9
	2018	(159)	(118)	(74.2)

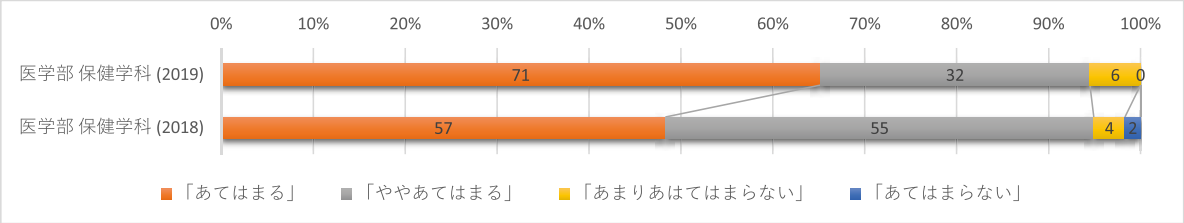
※ 医学部保健学科以外は、前期開講済
※ 評価基準　1「 あてはまる」2「 ややあてはまる」3「 あまりあてはまらない」4「 あてはまらない」　（以下　同様）

あなたが本年度受講した「 情報」の授業についてお尋ねします。

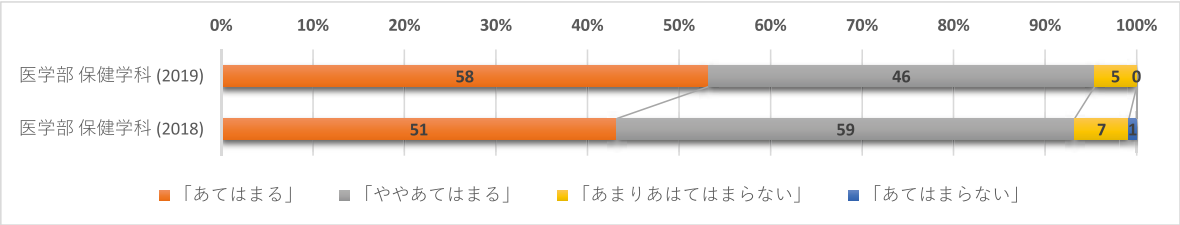
質問　１．コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。



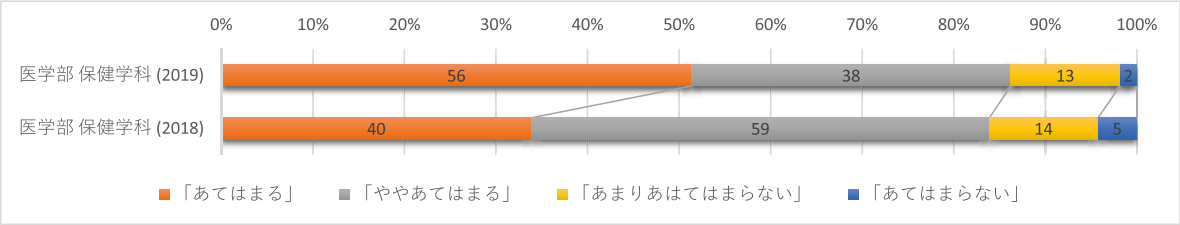
質問　２．コンピュータの活用能力を高めることができた。



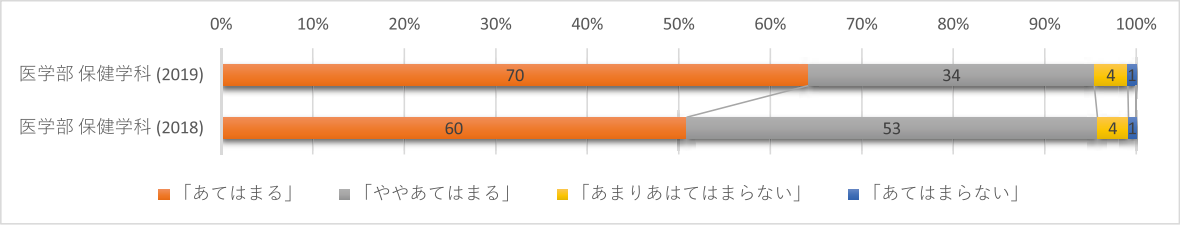
質問　３．情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。



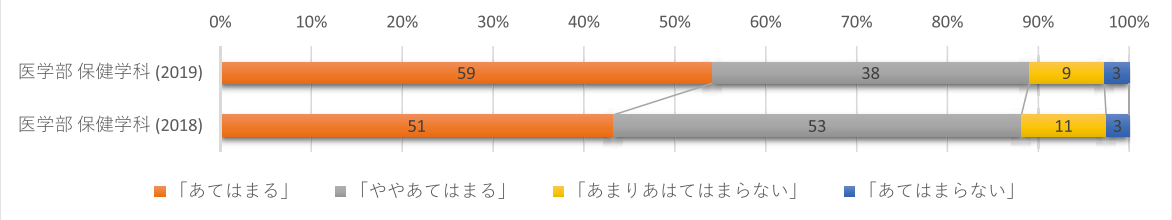
質問　４．学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。



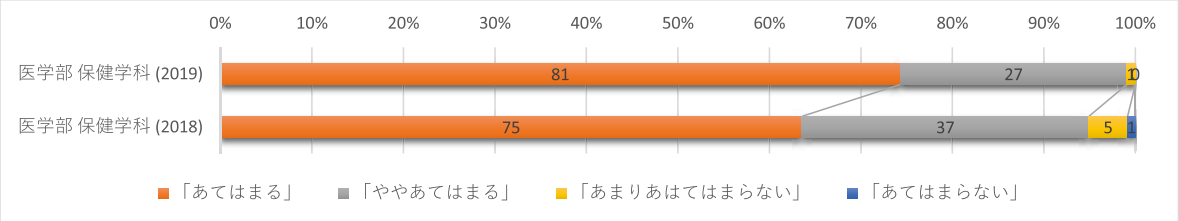
質問　５．シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。



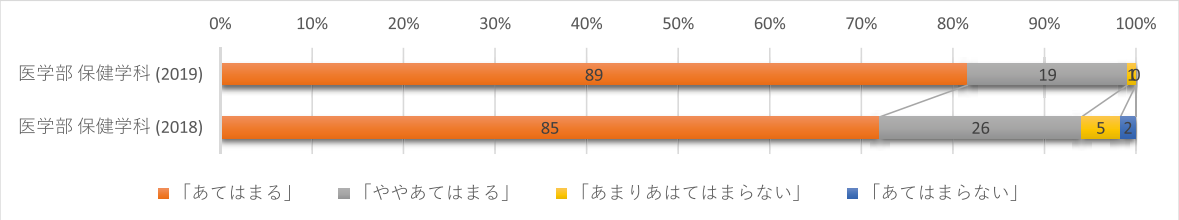
質問　６．教員やTAの考え方は、よく配慮されており適切なものであった。



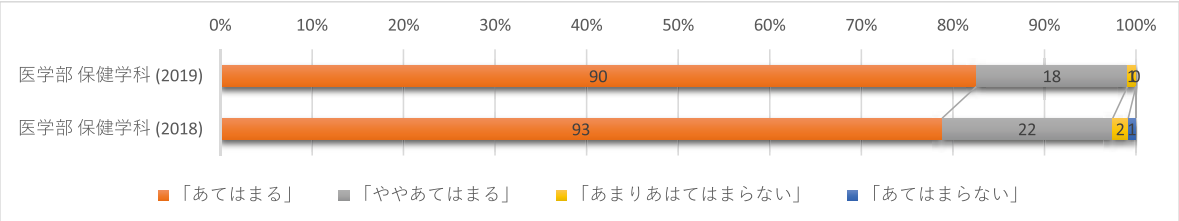
質問　７．出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。



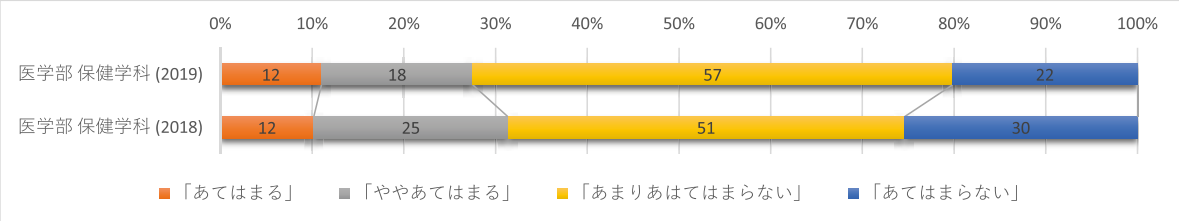
質問　８．クラスの人数は適切であった。



質問　９．教室の環境は適切であった。



質問　１０．もっと高度な内容を学びたかった。



【自由記載】情報の授業に関して，気付いた点，改善すべき点等を自由に書いてください。

質問１．　コンピュータやインターネットの基礎知識を修得できた。

特にExcelとWordに関する知識が得られた。

質問２．コンピュータの活用能力を高めることができた。

クラスにより行うレベルに差があり、今後のコンピュータの活用に影響がないか心配である。

特にExcelの活用方法が増えた。

質問３．情報倫理に関する知識・態度を身につけることができた。

最後にPowerPointで自分で調べ、まとめられたのが良かった。

質問４．学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

時々難しいことがあった。

進度がはやい時があった。

度々説明が不十分で問題を理解出来ず、置いてけぼりにされている感覚があった

質問５．シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。

（回答なし）

質問６．教員やＴＡの教え方は、よく配慮されており適切なものであった。

TAさんは優しくわからないところを丁寧に教えてくれた。

わからない時にアドバイスを貰えたのが良かったです。

質問７．出欠管理、成績評価基準など教員の学生への対応は適切であった。

（回答なし）

質問８．クラスの人数は適切であった。

（回答なし）

質問９．教室の環境は適切であった。

もう少し早く教室を開けて欲しい

質問１０．もっと高度な内容を学びたかった。

今のままの内容でも十分新しい知識を得ることができた。

質問１１．その他、情報の授業に関して，気付いた点，改善すべき点等を自由に書いてください。

課題が少し難しい

看護学専攻の前半の学生と後輩の学生との授業の差が大きかったので、同じくらいのレベルにしてほしい。

授業内容と課題内容が異なりすぎていて困った。

情報ABで曜日が異なり、決められているのは不公平に感じた

真ん中の机の左から2番目のパソコンを使用していたが、ずっと使っているうちにフリーズすることがあり、データがとんでしまうときがある。

先生が周ってくれたので、質問がしやすかった。